327
319

島根縣商工業概要

始

島根縣商工業概要

327-319

目次

一 總說……一
二 運輸交通……九
　概說……九
　道路……鐵道……郵便、電信、電話……水路……諸車……港灣
三 商工業の概勢……三九
四 工業……四一
　概況……工場……電氣事業
五 重要商品概況……四六

大正15 4 11 内交

清酒……醬油……生絲……和紙……陶器……瓦……漆器……瑪瑙製品……纖詰……木蜆及蠟燭……
銅鐵器……廣瀨絣……乾溫飩……醋及其產蓮……杞柳製品……石材及石工品……米……麥……豆類……
藺……人參……麻……茶……白魚……甘藷……鰯……鯖……煮乾鰛……鯛……鰹……漉海苔……
蒲鉾……用材及薪炭材……木炭……椎茸

六 商工業……九六

概說……會社……銀行……金融……縣外轉移出入貨物……對鮮貿易

七 商工業施設機關……一一八

商品陳列所……商業會議所……產業組合……商工業各種組合……穀物檢查所……濱田測候所……學校

八 商業都市案內……一三〇

松江市……安來港……美保關港……廣瀨町……橫田村……大東町……木次町……平田町……掛合村……
今市町……杵築町……大田町……大森町……温泉津港……川本村……江津港……濱田港……益田町……
津和野町……西郷町

島根縣商工業概要

一 總說

管轄區域　島根縣は出雲、石見、隱岐の三箇國より成る。其の郡市別は左の如し。

（出雲）松江市　八束郡　能義郡　仁多郡　大原郡　飯石郡　簸川郡
（石見）安濃郡　邇摩郡　邑智郡　那賀郡　美濃郡　鹿足郡
（隱岐）周吉郡　穩地郡　海士郡　知夫郡

位置　東は鳥取縣に隣り、南は廣島縣に界し、西は山口縣に接し、北は一面日本海に臨む。隱岐の群島は出雲の北方四十浬の海上に在り。

地勢　出雲國　南は中國山系、陰陽の界を走り、北は渺々たる日本海に面し、東は、出雲富士（伯耆國大山）雲表に屹立して、白扇を倒に懸けたるが如く、白沙青松の夜見が濱（伯耆）は、其の麓より出でゝ中海の東方を劃る。西は石見國に接す。

到る處、山岳起伏するも平野亦少からず。簸川、能義の兩平野は煙霞の間に廣がり、兩平野の間、宍道湖あり。宍道湖は、西、斐伊川の諸流を受け、東、松江市街を兩斷せる大橋川に依り中海に通ず。湖畔の景、山紫水明、風光明媚にして、本邦十二勝の一に數へられ、東洋のゼネバと稱せらる。

松江市には島根縣廳あり、人口四万、山陰道第一の都會なり。

石見國　出雲の西に位し、山岳重疊して鬱蔥たる森林に富むと雖も良耕地少く、運輸、交通便ならず。國内山陰第一の大河なる江川あり。水源を廣島縣に發し、流程凡そ五十里、其の間諸流を合して江津港に至りて日本海に注ぐ。江津港より三次町（廣島縣）に遡る其の間三十里、舟揖の便あり。又、沿海、濱田、溫泉津の良港あり、船舶の寄港碇泊に便なり。

隱岐國　出雲の北方約四十海里に在る、一群の火山島にして、四箇の主島及數箇の小嶼と併せ一國を爲せり。島内陸上交通機關に乏しきも、海運の便は開け、殊に西郷港は良港にして巨船を泊するに適す。

氣候　概して適順にして暑氣苦しからず、冬季は降雪少きも梅雨の候と九月の頃降雨を見ることは多し。

土地　本縣の總面積は四百二十九方里にして全國各道府縣中の第十九位に在り。今農林地反別を見れば左の如し。

反別	田	畑	山林	原野
	三六、六二町	三六、一八六町	三六四、八七五町	一、二〇九町
總面積に對する割合	二・二五%	八・一八%	七八・一四%	〇・三四%

地味　海邊、河畔等平原部は概ね肥沃にして米麥其の他農產物の生產に適し、又、總地積の大部分を占むる山岳丘陵は造林に適す。而して中國山脈の到る處、砂鐵を含有す、其の他銅鑛石膏等鑛物を包藏せる地方あり。海岸線は百八十里に達するを以て從て水產物豐富なり。

戶口　大正九年末本縣現住戶數は十四万九千九百七十三戶にして、現住人口七十二万三千百六十三人なり。密度を見るに一方里千六百八十五人とす。職業別戶口

左の如し。

	農業	漁業	工業	商業	鑛業
戸數	八八、九七七	七、六五二	一四、二八三	一七、七〇二	一七二
本業人口	三二九、二九四	一四、四四五	三三、七六七	四〇、二二〇	五三四
副業人口	五四、一五一	一八、九八二	二三、五六八	一九、三三二	三〇三

而して近時農業人口に比し商工業人口の著しき增加率を示す趨勢あり是れ即ち本縣商工業の發達に向ひつゝあるを語るの一面と謂ふべし。

産業　本縣は海に陸に自然の遺利を藏し、沿岸線の延長は百八十里に達し漁族極めて多く、農牧適地多し、沃土甚大なり。而かも良森林、各種鑛物の藏有又頗る豐富なり。今之が既往に於ける趨勢を見るに時に一張一弛あるを免れざりしと雖も、概して長足の發達を爲し、大正九年に於て生產總額一億七百四拾五萬四千八百四拾九圓に上り、生產力縣民一人當り百四拾八圓餘にして又一戸當り七百拾六圓餘の計算を見る。左に最近五箇年間生產額に付其の發達の趨勢を示さむ。

	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
農產	二三、一九八、二四八 円	三四、八七〇、九二〇 円	四八、七二〇、〇一二 円	七八、三五四、七四一 円	六四、九三四、八八五 円
工產	一一、三一九、二〇五	一三、三七四、七二三	一六、九五二、八一八	二三、九六一、〇七一	二三、六〇三、二八四
水產	二、三五五、二五六	二、九六二、三一九	四、四二五、八三九	六、〇二〇、一六二	七、五七二、八九八
鑛產	一、八八七、三八五	二、五七七、九三三	三、〇〇六、三二七	一、四五九、〇七八	一、一九四、九六一
林產	二、八〇三、二四六	四、三七〇、九五五	七、一六二、六九三	八、七八八、三五三	八、八六九、五四八
畜產	九八七、〇二六	一、一三〇、八四四	一、五九七、七八五	二、一七一、二七九	二、二六〇、二七三
合計	四二、五五〇、三六六	五九、二七七、七四四	八一、八三五、三六四	一二九、七五四、五八四	一〇七、四五四、八四九

今、大正九年に於ける郡市別生產の概況を見れば左の如し。

	農產	工產	水產	鑛產	林產	畜產	計
松江	一三四、八五八 円	四、二三六、〇八二 円	一三六、三五三 円	三、〇〇〇 円	三、九六〇 円	一二九、二五三 円	四、六三〇、三〇六 円
八束	一〇、八五八、一九五	一、八二九、九三六	一、七二四、四二六		六三一、八五二	三五一、五九〇	一五、三九八、九九八
能義	六、〇五一、八四二	一、五二三、四七三	一〇三、二七三		七四四、八二八	二二二、九七九	八、七〇六、五六七
仁多	三、一六三、三〇〇	四〇一、八四八	一六、八六二		四八九、八〇七	七〇、一九四	四、二八二、七八五

大原	四、〇九二、七三一	四三五、二四八	二、六六〇	四、二九八	三六八、三一三	五二、二七九	四、九五五、五二九
飯石	二、七九五、八一四	五九七、六二九	一二、〇六二	八一、一一四	七五三、〇二七	一八七、五四九	四、四二七、一九五
簸川	一三、五八七、七三三	三、六一八、八一六	一、五一三、四九五	二、四八二	一、〇六一、八九二	二五七、一一四	一八、八四三、九三一
安濃	二、四九一、四三〇	六九六、三六七	二七四、〇一三	—	一一九、九五二	七二、一三二	三、六五四、九〇四
邇摩	二、五二八、八六九	一、一〇三、一四八	九一〇、九三五	五五九、四一七	三三〇、一三三	一一七、五五三	五、五四九、一五四
邑智	五、三〇七、三〇八	八五九、六三三	一七、九〇二	七四、八七八	一、三九一、八三三	一五六、三三〇	七、八〇七、八八四
那賀	四、五七四、八一八	三、四五八、三一〇	一、七二二、三六九	一二八、六三二	五七二、〇六二	二三四、七三四	一〇、七〇〇、九二五
美濃	四、九三四、一八〇	二、二〇七、一五四	三三四、五〇三	六四、七三二	五五六、二八七	七四、五二四	八、一四一、三八〇
鹿足	三、一八六、七五七	一、一一四、二九四	一二六、二九二	七五、一六二	七〇五、三二一	二三五、六七四	五、三三三、四九九
隠岐	二、四二六、〇五二	五三一、三四六	七八五、六四三	—	一、二〇一、一八四	一一八、三六八	五、〇二一、五九二
合計	六四、九三四、八八五	二三、六〇三、二八四	七、五七二、八九八	一、一九四、九六二	八、八六九、五四八	二、二八〇、二七三	一〇七、四五四、八四九

備考　別項生産狀況の累計と本項累計と一致せざるは其の調査方法に相違ありたるに因る

生産狀況　最近の統計により大正九年中に於ける本縣の生産狀態の概要を表示すれば左の如し。

品種	數量	價額	摘要
農産			
米	一、一六三、九九二石	四七、九二四、九二四円	
麥	一七三、七六七	三、五三八、八二三	
大豆	三六、〇三六	六一四、二八七	
小豆	一四、〇一一	三〇八、三三二	
蠶豆	九、五八七	一四二、二九二	
粟	一九、二五三	二六八、五六七	
蕎麥	一二、九九四	一九二、七八三	
甘藷	一五、一五七、三九三貫	一、六二二、三九一	
馬鈴薯	七二四、四二一	一五八、一四七	
農用			
青刈	八二七、六三八	二三八、四四四	
藁	一、四八三、一七一	一七五、三三三	
蔬菜	七、九三三、五二二	六四四、一二二	
雜穀	一、三一〇、〇〇二	二一二、九七七	
產牛	七一五、七六八	二八六、二七三	
蒟蒻	八〇四、〇八二	一九三、三五五	

農業戶口	戶數	八八、九七七戶
	專業人口	三一九、二九四人
	兼業人口	五四、一五一
	計	三七三、四四五
	一戶當平均收得	八三円
	總人口に對する割合	五一%
農耕地	田反別	五五、八六八町
	畑反別	三七、九二六
	計	九三、七九四
	農家一戶當耕作	一〇反五一
	自作地 田	二四、〇六一町
	自作地 畑	二〇、七二三
	小作地 田	三三、七二二
	小作地 畑	一六、八三三

産物		
物		計
	茄子	一、一三〇、二六三
	其の他の蔬菜	五一、八三五
	計	—
特用農産物	人參	二一、八三六斤
	葉煙草	一、五七九貫
	種棉	二一、七七七貫
	大麻	一六七、〇四九
	寶檳榔	二四二、六三二
	櫨	四九一、六六二
	三椏	八五六、三五四
	楮	二五、三六三
	杞柳	三五、一三八
	其の他の特用農産物	二九〇、五〇四
	計	一七一、五二九
果實	蘋果	五七、四五二、一四七
	其の他の果實	五九八、六三六
	計	五七、四五二、一四七
畜産	牛	三六、九五五
	馬	四〇、三五四
	山羊	二三、〇七三
	綿羊	二三六、八七三
	鷄	四八、五四二
	其の他の畜産	五四八、二〇八
	計	六五三、七九六
蠶種	蠶種	一九、五三三
	蠶種	二一、七七一
	計	二一、七九〇
合計		一、八一五、二〇三

一反歩當收穫高	糯米	二五〇、五〇四
	陸米	一七一、五二九
	平均	五七、四五二、一四七
麥	大麥	三六、九五五
	裸麥	四〇、三五四
	小麥	二三、〇七三
	平均	二三六、八七三
菜畑反別		四八、五四二
桑園反別		五四八、二〇八
養蠶飼育實戸數		六五三、七九六
掃立枚數		一九、五三三
		二一、七七一
春蠶		四三、六七七石
夏蠶		三、六六一、四五〇貫
秋蠶		一五〇、七〇〇
		五〇、二一三
		二、七四七、四四二

畜産							
合計	牛乳家肉禽製乳卵	屠殺		生産		合計	果實蘋種蠶
		牛	馬	牛	馬		
		山羊	豚	山羊	豚		
				鷲	鷄		
一、二九四、四五二	一、二九八、八〇八斤	六〇二、七八五斤		一五八、四〇〇疊			九五〇、一三〇貫
一六〇、七〇八個	一六〇、七〇八個	七、四七四		一二六			七、九一五、五七二
		一〇八、四八一		一、九五三			繭
		二五		六三			
				一〇七、一二六、五三〇			
				九九五			
							種
							特別蠶種
							普通蠶種
							七、六七九、七〇〇
							生産物總價額に對する百分比
							六七、二五五、二八四
							八六八、五六二
							六、五七二、六〇六
							五四六、七九八
一、二三四、二五二							林野放牧場面積
二三、四八九							
一八、二三五							
二九一							
二六六、〇二二							家禽家畜現在數
一、八九九							
四五四、九三七							屠殺頭數
三、〇六三							
五七、一一七							
一二							
九九、三〇六							獸醫人員
一三二、三七八							蹄鐵工人員
五九、七一六							
二、八七一、〇二七							生産物總價額に對する百分比

種牡牛……三五五頭
種牡馬……四
乳牛……三七

| 林産 | | |

| 産 | | |

| 品 | | |

| 産 | | |

| | | |

船等を利用し、而して其の中、最も取引多き市場、大阪、兵庫との交通は水陸相央ばし、京都、東京方面は汽車に依り、若松、博多、下關、釜山、大阪、北海道、秋田方面は帆船を利用するものあり。

邑智郡江川地方附近は、同川を利用し、川舟に依り江津港に輸送し、同港より帆船又は汽車を利用するもの多し。其の他及び那賀郡南部は、縣道廣島街道に依り同郡及美濃郡各沿海部、邇摩郡は汽船、帆船に依り、美濃郡南部及鹿足郡は、國道山口街道、又は吉賀道に依り、隱岐は帆船及び汽船を利用し、境港より汽車に連絡輸送を爲すものあり。而して石見、隱岐國に於ける帆船は、主として朝鮮、北海道、九州、北陸、秋田邊との貨物運輸に利用せらる。

(二) 道路

國道は、二路線あり六十六里餘、縣道は四十四路線、二百八里餘あり。就中、山口街道は松江市を基點とし西八束、簸川、並に石見各郡沿海部を縦貫して山口縣

に達す。廣島街道は、八束郡宍道に於て山口街道より分岐し、大原、飯石郡を經て廣島縣に入り、廣島市に通す。又廣島街道は那賀郡濱田町に於て山口街道より分岐し廣島市に達す。

今、本縣に於ける其の主なる街道に付里程を擧くれば左の如し。

驛名	驛間里程	延里程	驛名	驛間里程	延里程	驛名	驛間里程	延里程	驛名	驛間里程	延里程
鳥取街道			松江	里 町 二・三五		宍道	四・二二		淺利	四・一八	二九・一四
松江	二・三五		揖屋	一・〇五	三・三	莊原	一・一〇	五・三二	江津	一・二二	三一・〇〇
揖屋	一・〇五	三・三	荒島	一・一四	四・一〇	江直	一・〇三	六・三四	大金	二・二八	三三・二八
荒島	一・一四	四・一〇	安來			今市	一・二一	八・一〇	濱田	三・三三	三七・二六
安來			鳥取縣米子	二・二七	八・〇一	小田	四・一〇	一二・三〇	周布	二・〇七	三九・三三
鳥取縣米子	二・二七	八・〇一	大田			波根東	三・二五	一六・一〇	三隅	三・〇六	四三・〇四
大田			大森			大田	二・〇一	一八・一一	益田	五・〇六	四八・一〇
大森			大家			大森	二・二八	二一・三〇	横田	二・二七	五一・〇三
大家			青原			大家	三・二九	二四・三三	青原	一・一四	五二・二六
山口街道			湯町	一・二五							

津和野	山口縣・德佐・廣島街道・松江・尖道・三刀屋	掛合	頓原・廣島縣赤名・廣島街道・濱田・橫谷・濱田ヨリ廣島街道濱田	今福	今市・木次・廣島縣大朝	今市	木次	大朝
四・一九	五・〇八	一三・三五	一八・一三	三・三三	二・〇八	六・〇六	一一・二六	一五・〇〇
三・一五	二・〇七	二一・二九		五・二〇				
二・〇七		二四・〇〇		三・一〇				

(三) 鐵道

山陰線は京都驛又は大阪驛を起點とし、西漸し現在濱田驛を經て周布まで開通すべく、周布驛より、西、益田町、津和野町を經て山口町に達する山陰本線は、目下工事中にして大正十三年に貫通するに至るべしといふ。又、廣島市を起點とし石見大田又は江津を終點とするもの、及び、廣島縣落合を起點とし木次町を終點とする陰陽兩縱斷線、近々起工するに至るべく之等完成の曉は本縣交通上の利便、蓋し豫想外なるべし。前記省線山陰本線、同支線出雲今市及大社間の外、一畑輕便鐵道と簸上輕便鐵道あり。其の各驛間の距離及旅客貨物取扱數量を表示すれば左の如し。

(一)哩程表

驛名	驛間哩程	延哩程	驛名	驛間哩程	延哩程	驛名	驛間哩程	延哩程
▲▲▲▲▲松江米子間			尖道	六・五	一〇・六	石見大田	二・一	四〇・五
松江	四・一		莊原	二・五	一三・一	五十猛	三・五	四四・〇
馬潟	一・九	六・〇	直江	三・八	一六・九	仁万	三・八	四七・八
母屋	三・五	九・五	出雲今市	三・四	二〇・三	馬路	三・七	四九・七
荒島	三・〇	一二・五	知井宮	三・〇	二三・五	温泉津	一・九	五二・四
安來	五・五	一八・〇	江南	二・六	二五・九	黒松	三・六	五七・〇
▲▲▲▲▲米子▲			小田	四・〇	二九・九	淺利	二・七	五九・七
松江	四・二		田儀	二・四	三二・三	石見江津	三・九	六三・六
▲▲▲▲▲松江濱田間			波根	四・七	三七・〇	都野津	二・七	六六・三
湯町			久手	一・四	三八・四	波子	二・九	六九・二

(二)客貨取扱數量

(一)山陰線旅客貨物取扱數量表　(大正九年度)

驛名	旅客 乘車人員	旅客 降車人員	發送小手荷物	貨物 發送	貨物 到着
安來	九六、二〇一 人	一二四、九四五 人	一〇、〇七一 斤	三〇、〇一九 噸	一四、七五三 噸
荒島	七六、三六〇	六七、七一四	四、七八一	八、九三六	一、八六〇
揖屋	六〇、三九〇	六一、三〇五	七、九一五	三、一二一	六六五

下府	濱田	出雲今市	大社間	出雲今市	朝山	大社	出雲今市	一畑間	出雲、市	大津町	武志	鳶巢	旅伏	雲州平田	布崎	小境	一畑	宍道木次間	宍道	加茂中道	大東町	木次
四・〇	二・二				二・二	二・五	七三・二	七五・四					四・七	一・二	二・二	一・〇	二・一		五・四	三・二	四・五	
														六・八	八・六	一〇・九	一三・〇		八・六	一三・二		
										一・二	一・三	一・一	二・〇						三・五	三・六	五・六	

鳥濱	松江	湯町	宍道	莊原	直江	出雲今市	朝山	大社	知井宮	江南	小田	田儀	波根	久手	石見大国
四四、〇〇八	四一四、三一八	五五、九九一	六五、四五一	八二、七〇五	六四、九〇八	三二四、〇七三	四二、五七二	三〇六、四四六	四八、四七三	六三、三五〇	三五、一一九	五九、三八三	四一、三三一	四二、三二五	一〇八、七四〇
四三、四八八	四〇九、七一四	五〇、一六四	六〇、九七六	四八、五七八	三、六九九	三二四、〇七三	四〇、一八六	二九八、七四八	四八、〇四〇	六二、三五六	三五、一一九	五八、八八三	四一、三三一	四二、三二五	一〇八、七四〇
一、〇一七	八四、九四五	一、二四〇	五、三四七	二、六四四	三、六九九	二、九四〇	一、六九〇	一四、七四八	三、〇四〇	二、八五六	三、二四三	七、六四六	二、九八九	七、九六五	八、四〇四
三、三五八	二四、九八三	二、一八五	一〇、〇〇一	三、一七七	二、九三一	一四、九六六	四、九四三	二九、三五〇	四、九四〇	二、九五六	四、二四三	九、八三二	二、一二五	一〇、〇九九	一三、三九〇
四四、九九〇	二九、三五〇	二、一八五	一〇、〇〇一	三、一七七	二、九三一	一四、九六六	四、九四三	二九、三五〇	四、九四〇	二、九五六	四、二四三	九、八三二	二、一二五	一〇、〇九九	一三、三九〇
一四、七五三	一、八六〇	六六五	四三九	一、一三七	一、四六六	九、八三二	一、一二五	六、〇九九	八、六〇	一三、二					

(二)簸上鐵道旅客貨物取扱數量表（大正九年度）

驛名	乘車人員	手小荷物 發送	手小荷物 到着	貨物 發送	貨物 到着
宍道	一四、九三四	七、〇〇〇斤	二、一二三噸	一、一〇一噸	二、一二三噸
加茂	三三、六九七	二、一七五	六、六九六	二、八三一	一、〇一一
中町	五一、九三四	四、三二〇	一、四一六	五、四六七	三、五四九
大東	五九、九七〇	五、〇八〇	八、九〇六	二、九二一	七、八七二
町					
木次					
五十猛	三三、六一七	八、三六三	二、四二三		九九七
仁万	六七、〇〇〇	六、八九一	六、六九六	二、七四八	二、七四八
馬路	三一、〇一〇	二、七七五	一、四一六	三五九	三五九
温泉津	九八、六七三	一〇、九二一	八、九〇六	四、三四七	四、三四七
黒松	三六、一四七	四、三二一	一、四三八	七四七	
浅利	六一、六五五	一〇、八八五	一六、六七三	九、七七〇	九、七七〇
石見江津	二一、〇一七	一、七六八	七、四五三	一、四八三	一、四八三
都野津	二一、八一四	三、八三三	二、二六〇	一、二三九	

(三)一畑輕便鐵道旅客貨物取扱數量表（大正九年度）

驛名	乘車人員	手小荷物 發送	手小荷物 到着	貨物 發送	貨物 到着
出雲今市	九八、九五〇人	五七、五八八斤	八八、四〇〇人	一、六〇一噸	三、七八七噸
大津町	二五、八八〇	一一、〇三三	二六、三五六	二九七	一八七
武志	一二、五六五	二、九九〇	一二、七四五	四	一三
高巣	一六、七五〇	一、三一〇	一六、二三四	一〇	四二
旅伏	一三、〇一四	一、九〇八	一二、九〇八	八一	九五
雲州平田	七三、六一三	三、七〇一	七八、六三四	一、八一八	一、八一八
布崎	九、五六二	一、一三〇	八、四六〇	一九	九
園	八、七〇七	六七〇	六、七三四	一四	一一
小境	二四、八五九	四、六六二	三七、三〇五	三〇〇	三七五
一畑	六五、三五八	一五、八〇一	六二、四八二	七七五	四四八
瀧					
大屋	一四、四三六	一、四二〇	一、四二〇	一四四	一四四
	九、七三九	四、四七七	二〇四	一九四	

(四) 郵便、電信、電話

松江、濱田の一等局を始め、縣下三等郵便局約百五十局あり。又、縣下樞要地には電信、電話の施設見ざるなし。而して、松江、大阪間は岡山市の中繼を經て電話通話の直通するの便開く。又、松江市と朝鮮元山の間、直通電信あり。隱岐內地間には海底電信の敷設あり。斯の如く本縣は概して通信上甚しき不便を感ぜず。郵便、小包、爲替、電信、電話に付最近五ヶ年間の概要左表の如し。

(一) 郵便

年次	局數	郵便切手賣捌所數	郵便函數 引受	郵便函數 配達
大正五年	一四六	九七八	一、〇〇三	二一、二七三、四二七
同六年	一四七	九八七	一、〇一四	二〇、二八一、七七〇
同七年	一五〇	九九三	一、〇一七	三一、四〇一、五八二
同八年	一五七	九八五	一、〇三九	三五、一〇七、〇三七
同九年	一六〇		一、〇三七	四三、二四九、一九

(二) 小包

年度	取扱局數	引受 普通	引受 書留	引受 價格表記	引受 合計	配達 普通	配達 書留	配達 價格表記	配達 合計
大正五年度	一四六	一八五、〇一四	六〇、〇三五	三五	二四五、〇八四	二二四、六三八	九四、〇三五	四一	三〇八、七〇四
同六年度	一四七	二三八、二五〇	七一、五九八	一五	二九九、八六三	二四九、八〇七	一一〇、一二五	一四三	三六〇、〇六五
同七年度	一五〇	三五五、六〇五	九六、二三五	三八	二五九、五四八	三〇八、一七七	一四二、五九七	一五六	四五〇、九一〇
同八年度	一五七	二九二、四八五	二一、二六〇	一五九	二七一、一〇六	二六〇、八四〇	一二六、九七三	二〇六	四五七、〇一九
同九年度	一六〇	四〇三、五三九	一二八、四〇一	四九六	二六四、六四二	二九五、二九〇	二〇五、〇一七	二八九	五〇〇、五九二

(三) 爲替

年度	內國 振出 口數	內國 振出 金額	內國 拂渡 口數	內國 拂渡 金額	外國 振出 口數	外國 振出 金額	外國 拂渡 口數	外國 拂渡 金額
大正五年度	二三三、一六六三	二、七〇、八四〇	四、一〇八、四〇六	二、七七九	一七	九七八	九二五	五六、五九七
同六年度	二七九、二五〇四	三、一八、四〇四	三〇八、六二四	三、五八八	二一	一、五二五	一、五二二	五八、五八五
同七年度	二九一、三三五	三、七〇七、一三七	三一三、八〇六	三、五八七	五	三五七	一、〇一六	五三、二六八
同八年度	三一七、三九一七	三、七四五、二七三	七、〇四六、一六〇	三、七三三	三〇	一、九一〇	六、二五	五四、八七二
同九年度	三三四、四七五八	三、八〇五、七四二	一〇、一七三、一七四	三、六八、〇七四	二二	一、五〇九	五〇三	三八、四三二

(四)電信

年度	取扱局所數	發信通數 内國 有料	發信通數 内國 無料	發信通數 外國 有料	發信通數 外國 無料	發信通數 計	着信通數 内國 有料	着信通數 内國 無料	着信通數 外國 有料	着信通數 外國 無料	着信通數 計
大正五年度	一〇三	三九七、五一三	六三、八三四	一三	六	三六一、三六六	三一八、三三八	七五、二二九	二八	七	三九三、五八一
同六年度	一〇六	四〇〇、七八五	七四、八四四	二六	一五	四七五、六七〇	四二八、四四四	八五、九一二	三九	一八	五一四、四一二
同七年度	一一〇	五〇六、七〇六	九七、〇五二	三九	六一	五九三、八九八	五二四、〇一〇	九六、〇九八	四七	四五	六一〇、二〇〇
同八年度	一一五	六二四、八三七	一一五、二一八	六七	三五	七四〇、一五七	六五七、九二四	一二三、二五〇	一〇〇	七八	九一、三五二
同九年度	一一九	五九四、九四四	一一六、一六七	九五	四〇	七一一、二四六	六六五、〇一二	一二八、八四七	一三七	五三	八〇四、〇四八

(五)電話

年度	局所 交換取扱局	局所 通話取扱局	局所 自動電話所	局所 合計	加入者	通話時度	呼出數
大正五年度	三六	三〇	二	七〇	一、〇四二	三五三、一六〇	三四、九九五
同六年度	三六	四三	二	八三	一、一四六四	三一六、八五三	三八、二三七
同七年度	三六	四五	二	八五	一、三一七	六〇九、四一七	七〇、三九三
同八年度	三九	五三	二	九四	一、五二九	七、七二六、〇四〇	九三、四九九
同九年度	三九	五八	二	九九	一、六四六	七、七二〇、四九三	七七、五四三

(五)水路

隱岐航路　隱岐汽船株式會社の經營に係る汽船、毎日境港を發し美保關港を經て隱岐島諸港に至る定期航路線あり。境、西郷間は四十五浬にして航海時間約九時間を要す。

中海航路、宍道湖航路　孰れも松江合同汽船株式會社の經營に係り、松江市を中心として東西に連絡し、毎日數回の定期航海を爲す。

日本海航路　境港より本縣沿岸を縫ひ下關港を經て大阪港に至る間大阪商船の定期航海ありしが時局突發以來不定期航海となれり。其の主なる寄港地は、濱田、温泉津、杵築、境、安來、大海崎の諸港とす。

樞要港灣間海里左の如し。

港名	各地間里程	延里程	港名	各地間里程	延里程	港名	各地間里程	延里程
松江・米子間			馬潟	四・二		松江・荘原間		
松江・安來	一二・〇		大根島	二・八		松江	七・〇	
安來・千本	三・五	一二・〇	境	五・五	一四・五	宍道	九・二	一六・〇
松江・西郷間			美保關	四・五		荘原・平田間	二・五	一八・五
松江・松江	七・五	一四・五	西郷	四〇・五	四〇・五	境・下關間	二一・七	四〇・二
松江・荘原間			境・境港	六九・〇		境・温泉津	六九・〇	六九・〇
松江	九・二	一六・〇	温泉津・濱田港	二一・〇	九〇・〇	濱田港・下關港	二九・五	二〇九・五
宍道・荘原	二・五	一八・五	濱田港・下關港	二九・五	二〇九・五			
荘原・平田間	二一・七	四〇・二						
松江・平田間	二一・二	六一・四						

(六) 諸車

人力車は各地到る所に在り、宿驛間の賃錢は一定し取締嚴重なり。國道及主なる縣道には乘合馬車の毎日往復を爲すものあり、又、濱田益田間、益田津和野間、廣瀨荒島間、安來井尻間、大東横田間、木次廣島縣三次町間、宍道湖北道路等何れも乘合自動車往復し此間の交通至便なり。

最近數年間に於ける諸車の數量は左の如し。

種別	馬車 乘用	馬車 荷積用	牛車	荷車	自動車 乘用	自動車 荷積用	人力車	自動車 自働	自動車 通常	其他	計
大正五年	三九	一、四六六	三八	一九、九三一	四	一	一、三一〇	八	七、〇六九	一、三二六	三一、二一二
同六年	三七	一、五七六	三三	二〇、〇二六	三	一	一、四〇一	八	八、〇〇〇	二、一一六	三三、〇七九
同七年	三九	一、六八四	一九	二〇、六八四	四	一	一、八三二	一二	一〇、八〇三	二、四七七	三七、〇〇三
同八年	二九	一、八四六	一四	二一、五八八	二	三	一、二五三	三七	一二、九八九	二、七四五	四〇、五二五
同九年	三	一、九一二	九	三一、五二五	九	四	一、二四七	一四	一五、四八九	三、〇一三	四四、二五一

(七) 港灣

海岸線の延長百八十里を有すれば、港灣の數必しも少しとせざるも巨船の碇泊に適するもの乏し。西郷、温泉津、濱田、安來の諸港は主要なる商港なるか、就中濱田港は船舶の出入最も多く縣下唯一の貿易港にして對鮮取引行はる。今縣下河港及海港に於ける船舶出入及移出入貨物數量及價額を示せば左の如し。

港灣、河津出入船舶

港灣河津名	水深	入船				出船			
		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
松江	八	八、六六七	一四六、六五九	七、六六七	一四六、六五九				
馬潟	一三	一五六	一、六六〇	一五六	一、六六〇				
安來	一四	四、二〇八	八四、四〇〇	八四一	八四、四〇〇				
温泉津	二〇—二〇	八三九	三〇一、一〇三	八三一	三〇一、一〇三				
濱田	三五	一、九二二	一〇七、九八二	一、九八一	一〇七、九八二				
美保關	一八	三、二一四	一四二、五四〇	三、二一四	一四二、五四〇				
加賀	一〇	一二四	五二、一二	一二四	五二、一二				
江角	一								
河下	六	七〇二	二七、〇〇〇	七〇二	二七、〇〇〇				
鷺港	一	三六二	一〇、〇〇〇	三六二	一〇、〇〇〇				
宇龍	二〇	八四八	三三、一〇〇	八四八	三三、一〇〇				
舟藝	二〇—二〇	一、四四	四六、三三九	一、四四	四六、三三九				
久手	一〇	三二七	一〇、〇〇〇	三二七	一〇、〇〇〇				
大浦	二五	一二五	四、〇〇〇	一二五	四、〇〇〇				
和江	二〇								

港灣河津名	水深	入船				出船			
		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
馬路	—	八〇	一、六六〇	六二	一、六六〇				
江津	—	一、六六〇	四五、二五二	一、六六〇	四五、二五二				
濱田	—	六二	一、四一八	八	一、四一八				
大濱	一七—一〇	一、四一八	三五、四〇〇	一、四一八	三五、四〇〇				
高津	六	一	一〇〇	一	一〇〇				
布施	一〇—二五	一、四一八	三五、四〇〇	一、四一八	三五、四〇〇				
福浦	一〇—二五	一、四一八	三五、四〇〇	一、四一八	三五、四〇〇				
重栖	一〇—二五	一、四一八	三五、四〇〇	一、四一八	三五、四〇〇				
都港	一〇—二五	八六	二、四〇〇	八六	二、四〇〇				
万濱	一〇—二五	一、四一八	三五、四〇〇	一、四一八	三五、四〇〇				
津戸	一〇—一五	一三〇	三、二〇〇	一三〇	三、二〇〇				
菱浦	一五—二五	一、四一八	三五、四〇〇	一、四一八	三五、四〇〇				
知々井	一五—八〇	一一四	二、八〇〇	一一四	二、八〇〇				
崎津	一五—五〇	一一四	二、八〇〇	一一四	二、八〇〇				
大山明府	一〇—二〇	一一四	二、八〇〇	一一四	二、八〇〇				
別郷	一〇—三〇	一、二六四	三一、六〇〇	一、二六四	三一、六〇〇				
浦夫	一〇—一五	一、二五二	三一、三〇〇	一、二五二	三一、三〇〇				
知江	一〇—二〇	四三九	一一、〇〇〇	四三九	一一、〇〇〇				

港灣、河津移出入貨物數量價額

港灣河津名	移入			移出			計		
	數量	價額		數量	價額		數量	價額	
松江	一	四、〇六二、四二四	円	二、九五八、八八	円		七、〇二一、一二四		円
馬潟	—	二六、七三〇		九四、四五〇			一二一、一八〇		
安來	—	一、一九六、一八〇		二、三六二、三六〇			三、五五八、五四〇		
温泉津	—	二一〇、三九九		一、三五〇、〇一一			一、五六〇、四一〇		
濱田	一	九七〇、一一〇		八八、五四三、八〇五			二一、九二九、一二五		
美保關	噸 三七	一四六、七〇〇		噸 三九	六七、〇〇〇		噸 三七	六二、八〇〇	
加賀	三二五	四一、二五〇		三五	四三、〇〇〇		三五	八四、二五〇	
江角	一〇	三五、〇〇〇		一〇五	六八、〇〇〇		一一五	一〇三、〇〇〇	
河下	—	四、一六五		七、五〇一	五六、〇〇〇		七、一六六	六〇、一六五	
慧濟	四	八、一四〇		六、三五七	四五、八四〇		六、三六一	五四、〇〇〇	
宇龍	三三五			四、六四七			四、九八二		

杵築	久手	八三九	一四二、六三〇		五九、二八三	九三、三〇〇		六二、一三九	一八九、八八三	
	浦	—	—		九八、五三〇	一、四六六、六三一		九八、五三〇	一、四六六、六三一	
大江	和	一	四〇		三〇	五七、〇〇〇		三一	五七、〇四〇	
馬路		四〇	一〇、〇〇〇		一七、六〇〇	八九、〇〇〇		一七、六四〇	九九、〇〇〇	
江津		八三、三〇〇	一一、〇〇〇		一、四六六、六三一	二、七八九、八三〇		一、四八三、六三一	二、八〇〇、八三〇	
長濱		一一、〇〇〇	一四二		八九、〇〇〇	一一二、〇〇〇		八九、一四二	一一三、〇〇〇	
大濱		一四二	一四、五二三		一七、六〇〇	二〇三、〇一一		一七、七四二	二一八、五三四	
高津		三四、五二三	四八		三六四、三五〇	三五二、八四二		三九八、八七二	三五七、八九〇	
布施	浦	四八	一一、〇〇〇		四〇、一六三	一七、六七二		四〇、二一一	一八、六七二	
重栖		一一、〇〇〇	六一二		二九〇、〇〇〇	三一二、〇一一		二九〇、〇〇〇	三二三、〇一一	
都万		六一二	一、一五二		二一、七四二	三五、二四二		二一、八五四	三六、三九四	
津戸		一、一五二	二五〇		二一、八〇〇	一一、八四二		二三、〇五二	一二、〇九二	
知々井		二五〇	三九五		一〇〇、〇〇〇	五五、〇〇〇		一〇〇、二五〇	五五、〇〇〇	
菱浦		三九五	一四二		一四八、〇〇〇	六八、〇〇〇		一四八、四〇二	六八、〇〇〇	
崎		一四二	九六		五六、八〇〇	二七、〇〇〇		五六、九三八	二七、〇〇〇	

	大山村	別府町	浦郷村	知夫村	西郷町
戸数	一	六四〇	一八五	一八〇	四、五三八
人口	一	三、〇〇〇	五六、八四四	五七、一三三	八五九、一五五
醸造	三五	三〇〇	三、五〇〇	一、一四〇	三、二〇〇
陶器	一五〇	二〇四	五、〇〇〇	三八九	一〇、〇〇〇
製紙	一五〇	一〇五	七八、一六八	三三〇	一三四、三五三
製絲	九、七五三	一、一五〇	五四五、五六八	一四四、三九二	一、〇四〇、九七三

三　商工業の概況

本縣は農業を主要なる産業とし商工業は未だ之と駢進するに至らず、商家は概して進取開發的の活氣乏しく坐して顧客を待つの風あり從て取引範圍狹少にして概して地方的需給に止まり。工業は醸造、陶器、製紙、製絲、鐵工、製銅業等に於て工場的設備を爲すものあるも概ね家内工業にして且副業的作業に依るもの多し。工産總額(大正九年分)は約千八百八拾萬圓にして産額拾萬圓以上を有するもの二十八を算するに過ぎず。是れ、畢竟するに地僻隘に位し、交通不便にして、中央都市との接觸薄く、主として地方の需給を充たすに止まり、諸般事業概して極地的經營に過ぎざりしに由るものなるべし。されど近年各種の交通機關着々設備せらるゝに從ひ一般商工業者漸く覺醒して活氣を帶びるに到る、又、縣に於ては大正七年産業計畫を樹立し蠶絲業、醸造業、製紙業、窯業、染織業を始め其の他各種工業に對し特に奬勵指導方針を定め、鋭意之が徹底に努む。最近一般世の好況

に因り斯業頓に面目を一新せんとするの兆あり。由來、本縣は農產林產水產物等に富み、勞銀亦低廉なるを以て今後交通機關の整備するに伴れ、是等物產移輸出を初め各種產業發達し、商工業が農業と駢進するに至るの時代は蓋し、遠き將來にあらざるべし。

三 商工業の概況

四 工業

(一) 概況

本縣に於ける工產物の總額は、大正九年中、千八百七拾七萬圓餘にして縣下生產物中、重要の地位を占む。而して工業總戶數は一万四千二百八十三にして、其の內工場數は三百三十二工場(職工五人以上使用するもの)あり。其の多くは家內工業に屬す。由來、本縣に於ける工業原料は豐富にして、加ふるに山岳各地に雄起雌伏し、燃料と動力を得る地を有する折柄、大正七年設定の縣產業計畫に基き工業奬勵の實行の域に入りつゝあれば今後、交通機關の具備及當業者の自覺發奮と相俟つて蓋し刮目すべき發達を見るに至るべし。其の他各種工產物の狀況は別項、重要商品概況の項、工產品中に讓り、茲に之を省く。

(二) 工場

大正九年十二月末日現在に於ける職工五人以上を使用せる工場總數は三百三十二

にして、之を類別すれば左表の如し

種別	醸造工場	機械及器具工場	金属製煉工場	窯業工場	製絲工場	製紙工場	雜工場	計
場數	五三	三六	一七	七八	四九	一〇	八九	三三一
職工數	四〇八	四五三	三九	七六〇	二、一九五	三九	一、一七八	五、五四一

而して今三十人以上を使用する工場名を表示すれば左の如し

工場名稱	所在地名	主要業務	一ケ年間就業日數	職工數
福島造船所	松江市	船造	三一〇	四〇
石橋鐵工所	同	石油發動機蒸氣機關製造	三一六	三七
松陽製絲場	和多見	生絲製造	二五〇	四八
野津鐵工所	雜賀町	船舶機關其他修繕	三一〇	三九
松陽新報社	松江分	新聞活版業	三一六	七三
島谷鑄工場	殿町	鍋釜諸機械鑄造	三〇〇	三一
松江柳籠研究所	新	杞柳バスケット	一九六	三〇
山陰新聞社	白潟本町	新聞	三一六	五〇

丸三陶器商會	八束郡	玉湯村	陶器製造	三一〇	三七
佐藤製絲場	同	宍道村	生絲製造	三〇〇	一五六
株式會社安來製鋼所第一工場	能義郡	安來町	製鐵	三一〇	六三
立製絲場	同	同	生絲製造	二四七	六三
簸上製絲場	大原郡	木次町	同	二七〇	五五
松江製紙株式會社	同	同	製紙	二五〇	九三
株式會社出雲館製絲所	仁多郡	三成村	生絲製造	三一〇	二五七
大津製絲場	簸川郡	大津村	同	三〇〇	三四
雲州平田製絲所	同	平田町	生絲其他製造	二〇四	二〇四
日本製絲株式會社平田工場	同	同	同	二七〇	四五五
杵築製絲場	同	杵築町	同	二八〇	一七三
新玉製絲場	同	荒茅村	同	二六〇	四六
雲陽製絲所	同	川跡村	同	二六〇	四〇
朝櫻製絲場	同	高松村	同	二三〇	三四
合資會社菅田製絲場	同	杵築村	製絲	二五〇	三九
松山製絲工場	同	荒茅村	器械製絲	三三五	四九
勝部製絲場	安濃郡	鳥井村	製絲	一八〇	三二

五葉製絲場	綾川郡	杵築村	同	二八〇	二八		
小野田樽材株式會社	同	同	セメント樽材	二六八	三三		
合名會社松山製絲場	同	苑茅村	生絲	三〇〇	七四		
中國製鐵株式會社第三工場	邑智郡	都賀村	銑鐵製造	一三〇	六二		
濱田製絲場	那賀郡	濱田町	生絲	二三〇	一一五		
一文字足袋織物株式會社	同	都濃津村	足袋製造	三〇〇	三四		
巴組山口陶器工場	同	石見村	陶器製造	一七五	三八		
津和野製絲場	鹿足郡津和野町		生絲製造	二一七	三六		
石見製紙株式會社	同	同	製紙	三三〇	五〇		
東洋亞砒酸製造所	同	木部村	亞砒酸製造	三三一	三四		
九州亞砒酸工業株式會社	同			九三	七四		

(三) 電氣事業

本縣に於ける電氣事業は時代の進運に伴ひ、近來其の發達見るべきものあり、從つて各種產業及生活上に資するところ少なからず。今縣下に於て電氣事業を經營するもの九社あり。之が經營者別に示せば左の如し。

會社名	事務所位置	資本金	電動力 水力	電動力 火力	設立年月
		円	キロワット	キロワット	
出雲電氣株式會社	松江市	一、一〇〇、〇〇〇	二、五二〇	—	明治二五、
濱田電氣株式會社	那賀郡 濱田町	一〇〇、〇〇〇	六五〇	—	同 四四、一
隱岐電燈株式會社	隱岐國 西郷町	一一、〇〇〇	—	三七、五	同 四四、七
美保關電燈株式會社	八束郡美保關村	一〇〇、〇〇〇	一五	—	大正二、九
石見水力電氣株式會社	鹿足郡津和野町	二〇、〇〇〇	三五〇	—	同 三、二
温泉津電氣株式會社	邇摩郡温泉津町	一〇、〇〇〇	五〇	—	同 三、一一
大根島電燈株式會社	八束郡 二子村	一〇、〇〇〇	—	一八、〇	同 五、一二
邑智電氣株式會社	邑智郡 川本村	一〇〇、〇〇〇	—	四〇、〇	同 七、六
島後電氣株式會社	隱岐國 東郷村	五〇、〇〇〇	一九〇	二〇、〇	同 八、一〇
山陰電氣株式會社	西伯郡 米子町	二三〇、〇〇〇	—	—	縣內配電力

五　重要商品概況

◆清　酒

來歷　舊記に依るに素盞嗚尊、脚摩乳、手摩乳をして八醞酒を釀さしめ、之を甕に盛りて八岐の大蛇に飮ましめ醉ひて睡りし時彼を退治せられたるは出雲神話に名高き所、思ふに當時酒の釀造せられたりしことは推察するに足るべし。爾來幾千星霜、釀法の改良と嗜好の推移に伴れ幾多の變遷を經て今日に及べり。而して現に清酒は本縣工產物中の首位を占め、縣外移出高尠からず。之が、改善施設に付ては縣、郡は固より當業者の常に研究し苦心する所たり。明治三十三年頃より縣下各郡に酒造組合を設け、主として酒類の改良、酒價の統一を計り、更に大正十年に於て島根縣酒造組合聯合會を設立せり、現時縣內を通じて十二組合あり。明治四十一年以來、島根鳥取兩縣聯合清酒品評會を開催し爾後兩縣輪番を以て開催せしが大正九年より一時休止し、更に縣下酒造組合聯合の清酒品評會を開催す

ることゝなれり。斯業の發達に就ては縣は曩に設定したる產業計畫に基き一層の奬勵を爲す爲め諸種の施設を爲し、工業試驗所を增築して、奬勵上の試驗をなすかたわら、講習講話會の開催に努めつゝあり。當業者に於ても亦品評會、喇酒會を催しつゝあるが、將來益々有望なる物產とす。

主產地は邪賀、簸川、能義、美濃、八束、鹿足の各郡及び松江にして最近五ヶ年間の產額左の如し

年次	釀造戶數	從業人員	產額	價額
大正五年	二六九	八八〇	六三、九九八	二、七二九、三四八
同六年	二六二	九九九	七三、一二八	三、五六九、三三五
同七年	二五二	九六六	七五、七六一	四、八六六、六〇三
同八年	二五四	一、〇三三	八四、七三三	八、一六〇、〇三〇
同九年	二五八	一、〇六六	八六、一一〇	七、一九五、五七二

●原料●　酒造用米は多く本縣產良米を精撰して使用するもの、一部不足米は主とし

て播種の優良米を移入して醸造するの外、山口縣、鳥取縣地方より移入するものあり。又、種麹は本縣に於て製造せらるゝも多くは京都・大阪地方より移入するものなり

●販路● 造石數の大部分は縣内に消費せらるゝも鳥取、山口、廣島の各縣、九州及朝鮮等にも搬出せらる。數量、年額百萬圓を超過す。

◆醬油

●來歷● 本縣の醬油は濃厚と醇色とを以て好評を博す。之が醸造の起原は詳かならずと雖も、生活必需品として古來より使用せられたり。近年に至り醸造業者各地に増加し、醸造法を研究し、或は品評會を開設する等斯業向上の施設を見る。而して本縣産業計畫は清酒業と同じく諸種の施設する所あり

●製産狀況● 縣下各郡に産し、就中松江市、那賀郡、能義郡を主産地とす。最近五ケ年間の産額等左の如し。

年次	醸造戸數	從業人員	産額	價額
大正五年	四五五戸	八六五人	三七、七五一石	六三〇、四八〇圓
同六年	四六〇	五七八	三八、四五二	七九〇、五〇五
同七年	四九三	七六〇	四八、三九〇	一、三六〇、一七六
同八年	三〇〇	五九五	四九、〇二九	一、六七九、六八七
同九年	二七七	五五八	四二、一七〇	一、四八八、九七五

●原料● 原料は縣内産及九州産を用ひ、大豆は本縣産のもの使用せるも、近年は朝鮮産のものを使用する向もあり。

●販路● 近年品質改善せられたれば漸次販路を擴張し縣内需用の外山口、廣島、鳥取の諸縣及朝鮮、九州に移出す。

◆生絲

●來歷● 生絲は明治十八九年の頃迄は僅少の座繰製絲に過ざりしが、同二十年に至り始めて器械製絲業起り、爾來、養蠶業の發達と共に各地に製絲工場續興し、

中には製品の精選並に品位の一定を期せんが爲めに小工場の集りて共同販賣を爲すものあるに至り、三十二三年の頃に於て斯業隆盛の域に向へり。降て、同三十八年に至り縣立原蠶種製造所を開設し蠶繭の統一を計りし爲め、原料漸く精良に赴き其の成績亦佳良にして製絲業に一段の進歩を見るに至れり。更に四十二年度に於て新に專門技術者を常設し、各工場に就き成繭處理、繰絲技術等の改善に就き實地の指導に力め益々斯業の改良發達を企圖しつゝあり。

●製●産●狀●況● 縣下各地に産するも、就中、簸川郡最も盛なり。工場作業に係るもの三十餘工場あり。近く綾部郡是製絲分工場を簸川郡地内に新設を見るべく、工場竣工の曉は本縣製絲價額の劇增を見るべし。其の他多數の工場は座繰製絲者なり。最近五ヶ年間の産額左の如し。

年次	製造戸數	産額	價額
大正五年	八、三〇八戸	二六、二三七貫	一、八六九、九五二円
同六年	七、一〇九	三一、七八八	二、六九八、九三四
同七年	六、六二九	三八、六八五	三、七三八、三八八
同八年	六、一四六	三五、九八五	五、三〇八、五七三
同九年	六、五五五	三一、〇二八	三、〇八九、三四一

●原●料● 原料繭は之を縣内の産繭に仰ぐ。而して消化餘剩繭は縣外へ搬出せられ其數量少からず

●販●路● 内國向にありては福井・石川の羽二重、京都の西陣織原料として販出すれども、名ある器械製絲場の製品は關西優等品として聲價を受け、横濱生絲問屋の手を經て海外に輸出せらる

㊤和　紙

●來●歷● 製紙業は其の起源頗る古く、延喜時代既に石見國の貢物として紙を納付せしことは史徴の證する所、一説には柿本人麿を開祖なりと傳ふる者あり。而して本縣は土質、紙の原料たる三椏、楮の栽植に適するを以て藩政時代に在りては藩主の保護奬勵厚く、津和野藩の如きは貢租に代ふるに半紙を以て納めしめたり。

然るに維新後廢藩と共に勸奬檢束漸く弛み、隨て産額減少せり。茲に於てか本縣は明治二十七年來縣費を補給し、二十七八兩年には郡に巡回教師を置き、同二十九年よりは主産地方に私立の傳習所を設け、職工の養成、技術の進歩、器具の改良を圖れり。爾來、斯業漸く發達し、同業組合に於ても、亦、原料栽培、職工養成、製品檢査、販路擴張に就き必要なる施設をなし、産業組合に於ても資金供給、共同販賣等の法を議したる爲め、其効果見るべきものあり。博覽會、共進會等に於ては常に優賞を受け從て市場に於て稍信用を得しも其の發達に伴ひ、往々粗製濫造の弊を生じたるにより、同業組合は之が矯正の策を講じ、縣は明治四十四年より工業技手を置きて其の指導に當らしむる等專ら斯業の健全なる發達を圖り、尚曩に設定したる産業計畫に依り近來一層之が改良發達奬勵に努めつゝあり。

製産狀況　本縣の製紙業は、殆んど農家の副業にして、多季農閑期を利用して手漉操業する者多かりしが、近來、機械を利用し專業として年中操業をなす者漸增の趨勢あり。主産地は鹿足、美濃、那賀、能義の四郡にして之に亞ぐを八束、邑智、大原、飯石の各郡とす。

製品の種類は半紙、中折、書院紙及半切紙等にして、所謂石見半紙は主として邑智、那賀、美濃の三郡に産し眞漉なるが故に色稍黑く紙面粗雜なれども紙質强靭なるを以て愛用せらる。最近五ヶ年の産額左の如し。

年次	製造戸數	職工人員	價額
大正五年	三、二六四戸	八、九八三人	五二七、九〇一圓
同六年	三、〇八三	八、五六六	六三三、三三一
同七年	二、八八八	七、八二〇	八〇三、九八一
同八年	二、八二三	八、〇三八	一、三〇一、八四三
同九年	二、六七八	七、三六九	一、三六〇、二六〇

原料・販路　原料楮三極は各郡盛に之が栽培を奬勵し年々産額增加の趨勢を見る。大阪を主として京都、東京、大阪方面に搬出せる數少からず。

◆陶器

來歷　本縣の陶器及瓦業は二百有餘年の歷史を有し、其の名夙に顯はれ販路極めて廣く、之が種類に布志名燒、樂山燒及石見燒の三種あり。布志名燒、樂山燒は共に出雲燒と稱し、江津、温泉津及濱田附近より產するものを石見燒と稱す。各窯の沿革及現狀を略記すれば左の如し。

樂山燒　樂山窯は出雲國八束郡川津村樂山に在り、此地松平家の別墅にして山水の勝景に富む。延寶年中松平家二代の藩主綱隆公、長州萩の陶工倉崎權兵衛の名を聞き長州公に請ひ聘して陶師となし窯を竝に築かしむ。權兵衛乃ち萩より齎らす所の陶土を以て業を始む是れ樂山窯の祖なり。其製品萩燒に似て更に一層の雅致あり、世に之を權兵衛燒と稱し珍賞す。爾來、其の業に盡すこと十八年元祿七年歿す。嗣子幼にして業を繼ぐ能はず權兵衛の弟子加田半六なるもの先に權兵衛に從ひ來り亦製陶に巧なるを以て綱隆公擧げて其の業を繼がしめらる。天明六年加田四代にして嗣絶ゆ。時の藩主治鄕公(致仕して不昧と號す)樂山窯の中絶を歎惜し享和元年當國の陶工長岡住右衛門に命じて再興せしめ、二人扶持を給し帶刀を免し陶師とせらる。治鄕公文化三年退隱して老を江戸大崎の別邸に養はる。公不昧と號し深く茶道に通じ自ら一流を創建せらる世之を雲州流と稱す。我が出雲國は一般に之を御流儀と稱へ廣く行はる。公又茶器其の他美術品の鑑識に長じ、普く諸器の眞髓を探究し其の造詣の深き時人之を稱して遠州以來の一人と爲す。故

に公の創意に係る造品を不昧公好みと稱なへ競ふて之を賞愛せり。住右衛門公の示命を仰き進で高麗の陶法を研究し技倆益々揚り頗る良工の名を博せり。文化十三年江戸に召され大崎の別邸に於て各種の茶器を作る。文政十年老衰を以て退職を願ふ。二代住右衛門代て其の業を繼承し空齋と號す給米仍舊に依る。文政四年三月藩命を奉じ長崎に抵り陶法を研鑽し居る事數年にして歸國す。茲に至りて空齋の技巧名聲並び揚りしが自然粗品を出し窯名を失墜せんことを慮り不良の品は悉く破毀すと云ふ。故に空齋の作にして今日現存のものは概ね佳品に屬す。安政六年空齋病て歿す。三代住右衛門空入父の業を始む。給米八俵二人扶持を受く。空入亦其の業に精し且多年の勤功に依り特に新組足輕に編入せられ明治七年空入年齒漸く老ひ家を男庄之助に傳ふ、之を四代住右衛門とす。此時祿制改正あり士籍に廢し祿十石を給せらる。明治十二年歿す。男國、家を繼ぐも尙幼少なるを以て祖父空入其の業を佐く、二十九年十月に至て愈々陶業を繼ぎ五代住右衛門空昧と改稱せり。空昧曾て惟へらく時世の進運は陶法亦徒らに舊式を墨守し安んず可らずと卽ち長州萩及び京師に遊び諸窯の大家に質し大に得る所あり。歸來益々淬勵し今日の盛運に會せり空昧子なく甥季三を養ひ嗣となし以て今日に至れり。

布志名燒　八束郡玉湯村大字布志名に於て製出す。寬延年中、船木與次兵衛村政の創業に係る、村政は富士名判官の家臣、船木與次兵衛村次二十三代の末裔と稱せらる。爾來百五十餘年の星霜を閱し、其間幾多の變遷を經て今日に至る。明和の末までは瓦燒の傍ら粗造の日用品等製するに過ぎざりしが、安永よ

り寛永に溯り、坏賀釉藥等稍々調和を得、製品從て見るべきものあり。殊に二代目土屋善四郎政芳、時の藩主松平治郷（致仕して不味と號す）の寵遇を受け、之が指導改善に努むる所あり。公の意匠による茶器を製し其技巧成りしかば名器として今日に傳はるもの尠からず。享和より文政に至る間、本窯特有の黄釉の發明に依りて其品位を進め、次で、天保年間より維新前に於て描畫、又は、錦手等の諸器を製するに至りたり。從來年を逐ふて進歩發達せしと雖尚形狀並に着畫に改善を要するものあり。同業組合を設け、又明治三十一年以來試驗所を置き專門技師を聘し坏賀釉藥の研究をなし、繪畫教師をして形狀、意匠描畫の改善を圖り、近年復た石炭窯を据付け素燒の改善を爲す等鋭意事業の發展に力を盡しつゝあり。其結果稍面目を改めたり

石見燒　寶歷十三年、那賀郡江津町大字郷田の森田某、周防國藩の陶工入江六郎より其の傳習し來たるを以て創始とし、其の後天明年間、備前より陶工の來るものあり。爾來、寶政三年、川波村大字波子字壹貫淵に於て白石平左衛門なる者始めて工場（機野屋場所といふ）を起し、又、文化年間、舊藩主松平周防守康任の家老某、濱田町に工場二ヶ所に建設し擂鉢、揑鉢、片口、德利、皿、茶碗等を製造せしめ、弘化二年都濃村大字喜久志、山形慶十郎なるもの粗陶器工場を設け山木屋丸物場と稱し製造に從事せり、爾來年を逐ふて各所に起業するもの續出し、卽ち江津町及濱田町附近並邇摩郡温泉津町附近より盛に製出する所謂粗陶器にして、專ら庖厨の器具に過きさりしか、各地共原土豐富にして前途擴張の望多きにより、明治

三十六年組合を創設し次て組合立模範工場を江津町及温泉津町の二個所に設置し信樂より教師を聘して製品の改良、職工の養成を圖りしか數年にして其効果稍々見るべきものあるに至り、販路擴張し、生産亦漸く增加するの趨勢を示せり。於是明治四十二年模範工場を石見村に移轉し、教師を岐阜縣或は京都市より聘して徒弟養成の傍ら陶土釉藥等の研究を爲し、益々事業の改善發展を圖りつゝあり。

長濱燒　長濱燒は慶長年間永見房造の創始に係り、舊藩主松平周防守より津和野名産たる樂燒の傳習を命ぜられて其の製法を習得し、從來藩主の指導に依りて事業を擴張し長濱燒の名聲を博するに至りたり。製品は博多人形に類似せる素燒のものと、施釉なる古風の龜の置物の如きものあり。

錦山燒　出雲節の本場たる安來町内、舊蹟比賣塚山下に窯場を有す、製品中帶紺青色の花瓶、火鉢、等手ごれの陶器多く、意匠圖案近代的にして古味を帶び雅趣を呈す創業日淺きも農商務省工藝展覽會に出陳して數回入選の榮譽を有す

製產狀況　現在に於ける前記各窯の製作品は、樂山燒は雅致ある茶器、花瓶を主とし、布志名燒は優美なる花瓶、湯呑、蓋物、其他室内裝飾器を造る。石見燒は摺鉢。揑鉢、片口、德利、茶器、盆栽鉢及水甕の所謂粗陶器とす。今最近五ヶ年間の產額等を擧くれは左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
大正五年	一〇九戸	四四七人	二八、五四二円
同六年	一〇四	四六四	二六八、三五五
同七年	九八	五〇四	四三七、〇九五
同八年	一〇一	六一四	五五八、六七六
同九年	一〇八	六七七	六二四、五四四

●原料● 原土は凡て製陶地附近に產出し豐富なり。釉藥は主として大阪より仕入れ縣內八束郡に產する來待石粉等を混用するものあり。

●販路● 出雲燒の產額は貳拾萬圓に足らざるも、石見燒は斯種製品として品質、他產地品に比し優良にして、價格亦低廉なるを以て內地は勿論、朝鮮地方へ盛に移出せらる。その產額優に百萬圓に達すべし

◈瓦

●來歷● 出雲瓦及石見瓦の二種あり。何れも數百年前より製陶せり。●出雲瓦●は八束

郡、簸川郡に於て製出せらるる黑瓦なり。●石見瓦●は那賀郡、邇摩郡美濃郡に於て製出せらるる赤釉瓦にして其の質强堅、能く霜雪に耐ゆ。近時生產販賣組合又は同業組合を設け、品質の改良、職工の養成、販路の擴張を圖り漸次生產能力增加す。

●製產狀況● 主要產地は那賀郡、八束郡、邇摩郡等にして、最近五ケ年間の產額等左の如し。

年次	製造戸數	職工數	產額	價額
大正五年	二六五戸	一、〇〇一人	一〇、九〇四、〇七三個	二四九、七八六円
同六年	二六三	一、〇〇八	一二、一〇七、九〇〇	三一三、一八六
同七年	二六四	一、〇三七	一二、四九五、二〇五	四七六、一八三
同八年	二六八	一、一二六	—	八九三、七五〇
同九年	二六六	九〇六	八、七五二、七八二	七九九、九六二

●原料● 瓦は坏土を要すること多量なるを以て工場は孰れも粘土產地に設けらる釉

藥は大阪より移入し、又來待石粉其の他地方産のものを混用す。

販路　石見瓦は北陸地方朝鮮等の寒地に移出せらるゝもの尠からす。出雲瓦は縣内需用を主とし鳥取、兵庫、廣島、京阪地方に移出せらる。

◆漆器

來歴　本縣漆器中著名のものを八雲塗とす。八雲塗の創作は明治二十年頃にして實用を主とし、樣質堅牢、且彩漆を應用して繪模樣を施し、優美にして雅致あり、且摩拭年月を重ぬるに從ひ一種の光彩を放つ所に在り。近時、塗法、意匠、繪畫等に工夫改善を凝したれば其の技大に進み、漸次世の賞賛を得るに至れり。最近に於ては青貝、鉛、錫等の嵌入及金銀粉を應用する等嶄新なる意匠に依り製出するに至れり。元來、本漆器は彩漆研出と堅地とを以て特色とし、他府縣類似品の製産多からざるが故に漸次世の嗜好に投じ前途有望にして今や本縣特産物の一に數ふるに至れり。

製産狀況　製品の種類は裝飾品、家具、飲食器等にして悉く家内工業に依る。而して八雲塗は堅地を旨とし、下地、下塗、中塗を經て彩漆繪付を爲し、更に上塗後之を平坦に研出し、或は艶消となし或は艶磨きとなす、其の之を完成する迄には實に三十有餘回の工程を掛くるものなり。故に堅牢にして耐久力に富み、且つ彩漆を施せる爲優麗温雅なるを以て價額比較的不廉なるが如きも使用上堅牢と優美の點に於て相當の價値を有するものなり。最近青螺應用の器物をも製作するに至れり。最近五ヶ年間に於ける產額左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
大正五年	一三四戸	二〇六人	六一、六四八円
同六年	一三二	一八六	六六、六八二
同七年	一〇五	一七六	七二、三〇九
同八年	八三	一四九	八七、八二九
同九年	七七	一五〇	九四、一五六

販路　近時、東京兵庫及京阪地方に販出するに至れり。又土產品として搬出せら

るゝもの多し。

◆瑪瑙製品

來歷　古書に徴すれば、瑪瑙製玉の創始は遠く太古に在りて、櫛明玉命の子孫居を出雲に移し、毎歳玉を貢献せしと云ふ。爾來、今猶之を産し、近時應用の範圍を擴張して有望の商品たるに至れり。其の品質堅緻にして光澤あり。就中、青瑪瑙は他に同質のものを見ざるを以て世に珍重せられ出雲瑪瑙の名高し。製品の種類は花器、置物、カフス釦、飾玉、風鎮、印材、簪、笄等とす。

製產狀況　製作は專ら松江市に於て行はれ、近時之か意匠形狀等に改良を加へ美術的工藝品少しとせず。而して近年需用頓に增加したるも原料豐富ならざるを以て產出額多からず。從つて原石の價額廉ならず又加工に多額の時間を要するを以て價額比較的不廉なり。最近五ヶ年間の產額等左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
	戸	人	円
大正五年	三〇	五三	四〇、五七〇
同六年	三〇	三五	三六、五〇〇
同七年	三〇	三六	三九、〇〇〇
同八年	三〇	三三	四二、六〇〇
同九年	二七	四五	五三、二六〇

原料　原石は八束郡玉湯村大字玉造華泉山より採取す。該礦は脈層を爲さず土中に點々散在するを以て之か採取に勞力を要すること少からず。

販路　專ら地方に於て土產品として販賣せらるゝも尙三府を始め山陽、九州、關東地方及北海道等にも販出す。

◆罐詰

來歷　罐詰工業中水產物製造は其の原料豐富且低廉なるか故に漸次發達し、特に三十七八年戰役の際軍需品として調達せられたり。然るに其の後軍需品の需要杜絶と共に其の事業を縮少せんとする傾向を見しも近年一般需要增加に伴ひ益々販

路を擴張し今や大阪を中心として各地に移出せらるゝに至る。就中、宍道湖の名産白魚、公魚、鰻等最も好評あり。

◆製造狀況　多くは工場作業に係り那賀郡濱田町、松江市、八束郡、能義郡及隱岐國を主産地とす。最近五ヶ年間の産額等左の如し

年次	製造戸數	職工數	價額
大正五年	三八戸	二一〇人	一二六、八〇九円
同六年	二六	一九三	二三五、二四三
同七年	二四	一七二	三三三、三〇九
同八年	二四	二〇七	四三七、三九三
同九年	三三	三〇九	五五五、一七二

◆原料　主として魚介類にして鹹淡水魚共極めて豐富なり。其の他獸肉賣類筍等の原料亦縣内に産するものを以て之が製造も盛なり。

◆販路　製品は大阪、廣島、下關、神戸方面に販出し縣内消費量は極めて少し。

◆來歷　木蠟は往時藩營事業たりしを以て其の保護奬勵厚かりしも、廢藩以來勿論廢し、加ふるに電燈普及に及びて其の需用頓に減少し、隨て本業も稍衰頽せしも近時に至り多少需用を增し産額亦增加の傾向あり。

◆製産狀況　主なる製造地は松江市、那賀郡、美濃郡にして最近五ヶ年間の産額等左の如し

年次	種別	製造戸數	職工數	産額	價額
大正五年	木蠟	五三戸	九二人	四二、一五三貫	五六、六三三円
	蠟燭	五七	七四	七〇、二六二斤	二〇、五四二
同六年	木蠟	五三	九一	五〇、二一〇貫	八二、一九二
	蠟燭	五三	七三	五六、七六六斤	一六、七二六
同七年	木蠟	四九	一〇三	三九、一〇三貫	八〇、八八一
	蠟燭	五一	六七	五八、一七九斤	二一、二七九
同八年	木蠟	四八	一〇六	二一、八三一貫	一七三、八三三
	蠟燭	四八	六九	五九、五四二斤	一四〇、五四七

| 同 | 九 | 年 | 同 | 同 | | |

作れるも、近時、洋鐵輸入以來、原料の高價なるに伴ふ、古鐵等混用するものあり

◆廣　瀨　絣

●●來歷　上古出雲國より絹を献せしこと舊記にあり。されば本縣に於ける織物業は●●上古より營まれたると云ふべし。現今織物中名あるは廣瀨絣とす。廣瀨絣は、文政七年、能義郡廣瀨町の醫師、長岡某の妻が製織せしを以て創始なりと傳ふ。天保の頃、緯整臺の發明、紋形紙の考案等に依り漸く其の術を得、爾來多少の盛衰ありしか、明治十一年內國勸業博覽會に出陳して、有功賞を得。爾後、共進會、博覽會等には力めて出品し以て比較研鑽を積み、或は視察員を各地に派出し、採長補短得る所尠からず。明治二十九年、能義郡は地區とせる廣瀨絣同業組合を設置し、製品の檢査を行ひ、當時其の產額貳拾萬圓に達せしも爾後頽勢を示したるが、大正三年時局の影響を蒙りし尖同町の大火災に起り當業者の大半其の厄に罹り、器具機械を失ひしを以て事業大に廢頽するの止むなきに至り加ふるに斯業一

般の不況にありと雖も漸次安定するに至り最近に於て著しく進步向上の域に向へり。近時能義郡、那賀郡に於て白木綿の製織業著しく勃興せり。

●●●●製產狀況　本縣機業家の大部分は家內工業に屬し、手織機に依りて製織すると雖も最近縣費補助を得て力織機を設備する工場簇出し漸次縣下に普及せんとする趨勢を見る。最近五ヶ年間の產額は左の如し。

年次	機業戶數	職工數	價額
大正五年	三、一七戶	三、七七三人	一四二、四二七圓
同六年	九、三三〇	一〇、三三五	二三〇、六八三
同七年	五、四七八	五、九〇四	二九一、二四一
同八年	四、八二四	五、四四九	二八七、二二六
同九年	二五五	三四三	二三〇、〇四二

●販路　縣內及鳥取縣を主とせるも北陸、大阪、山陽地方へも搬出せらる。

◆乾　溫　飩

來歷　本縣に於ける創業時代不詳なるも、現今、主産地は能義郡安來町を第一とし、簸川郡内平田、直江、大津地方及び松江市之に亞ぐ。而して安來町にて製造せらるゝ安來溫飩は凡そ百年前、福島某、小麥を手挽製粉せしに創る。又、平田溫飩の創業は安來より稍後年に於て製造せられたるものゝ如きも、品位可良にして聲名を博し天保年間より連年松江藩御用を命ぜられたるものなり。明治二十年頃「鷄卵入り」を製出して益聲價をあぐ。而して安來溫飩製造業者及び販賣營業者は、大正八年、能義郡を地區とせる能義郡製麵同業組合を組織して信用の保持と品質の向上、品種の統一を計りて聲價發揚に努めつゝあり。

製產狀況　孰れも家内工業にして然も製麵機械を有する者の如きは極めて少數にして、多くは在來の手打製法に依り、副業的作業に經營するもの多し。最近五ケ年間の產額等左の如し。

年次	製造戸數	職工數	數量	價額
大正五年	七九戸	一五二人	一〇五、六七〇貫	六三、四六四円
同六年	八三	一四二	一九六、七二六	一五九、六五三
同七年	八二	一五五	一七七、四四〇	一九〇、九七六
同八年	七八	一六二	二〇四、七〇五	二三〇、六八六
同九年	一〇四	二五二	一六〇、六四〇	一五六、四二六

原料　主なる原料は小麥粉なるが、往々地方產小麥粉を混用する者あるも多くは兵庫及大里產を用ゆ。

販路　平田溫飩は古來出雲名產の一として數へらるゝものにして品質可良、松江手打製之に亞ぎ、安來製及松江器械製も風味佳良にして貯藏久しきに耐へ色味變せざるの特長を有するも、製品の三分の二は縣内に於て需用し其の他は主として鳥取縣三丹地方、新潟、北海道方面に販出せらる。

◆疊表及莫蓙

來歷　八束、簸川、美濃の三郡は古來藺草を栽植し藺莚を製造せしか、近時之か

奬勵に努め、殊に美濃郡に於ては明治三十三年に、松江、八束及簸川の一市二郡は同三十七年に、各表莫產同業組合を設立し、製品の改良、檢査を行ひ販路の擴張を圖りし結果、遠く北海道及朝鮮に輸出するもの多きを加へたり。花莚の製造は一時盛ならんとせしも終に發達を見る能はず目下製造中止の姿にあり。

製產狀況　藺莚製造は專ら農家の副業たり。製作時期は主として七月より十月頃迄を盛期とすれとも多季農閑の時に於て製織する者も亦少からす。最近五ヶ年間の產額等左の如し

年次	製造戸數	職工數	價額
大正五年	三、一九六戸	三、六四一人	二〇七、四九五円
同六年	三、二四三	四、三一〇	二三八、二四三
同七年	三、二〇六	四、三七〇	三〇八、六五五
同八年	三、三四八	三、九九三	四九三、〇八七
同九年	三、二〇九	三、八〇八	四七〇、八二七

原料　原料藺草は凡て縣內に於て生產す。從來田苗なりし爲め製品稍軟弱の嫌あるを以て各同業組合は藺質改善の爲め苗畑仕立を奬勵しつゝあり。

販路　製品の販路は鳥取、大阪、山口、新潟、秋田、福岡の諸府縣及朝鮮等なり。

◈杞柳製品

來歷　明治二十九年頃、邇摩郡大國村篤志家安井好尙なる者、斯業の本場たる但馬より杞柳苗を購入して同村に栽培し、次で村民に勸誘し但馬に至り製作の修業を爲さしめたるを以て本縣斯業發達の端緒とす。而して明治四十一年以來、同郡、郡農會又は縣等より補助費を支給せしこと一再ならず、漸次發達普及せり、近年に至り簸川郡地方に於ても盛に製造せらる。大正八年頃より松江市に製作者現はれ從つて市內に製造業增加し工場數ヶ所に及び產額著しく增加せり。

製產狀況　多くは家內工業に屬し、工場的經營者少し。されど產額に於ては全國に於ても要位に在り。最近五ヶ年間に於ける產額左の如し。

年次	製造戸数	職工数	数量	価額
大正五年	戸 五	人 三	二九、〇二四個	円 八、二三〇
同六年	六	一九	二一、七二〇	一一、三八五
同七年	一五	八六	二五、一一三	二九、六二〇
同八年	一七	一二一	二六、一七〇	八九、〇二五
同九年	二四	一三三	？	四八、九二〇

原料　本縣に於ける杞柳栽培反別は今や四十町歩に近く、漸次栽培反別増加の趨勢あり。而して原料は豐富に付全部を消化するの域に進まず縣外に搬出せらるゝ數量少からず。

販路　製品は大別して行李と提籠とす、行李は多く邇摩郡に於て製造せられ製品は主として九州方面へ搬出せらる。提籠は出雲地内に於て製造せられ、製品は地方的需要よりも阪神地方に移出多し。

◆石材及石工品

來待石　八束郡來待村より産するを以て此名あり。石質强硬ならず。工作容易にして而かも能く霜雪及火熱に耐ゆるを以て特長とす、且價額亦低廉なるにより建築用材として需用多し。殊に綠苔の附着速かなるを以て庭園の裝飾品として賞用せられ殊に燈籠、唐獅子、水鉢等を製作せられて雅趣あり。近年同業組合を設けて粗惡品の推除に努め、製品の色澤、形狀、寸法等に就き一定の檢査を行ひ聲價發揚に努む。

大根島石　中海に點在せる大根島より産出し俗に島石とも稱す。灰黑色にして無數の孔竅を有し其の質頗る堅硬、建築用材として愛用せられ特に礎石に適す。

荒島石　能義郡荒島村より産す。石灰色に淡紅斑を帶び其の質脆弱なるも價額至廉なるにより樋石、火櫃、竈等として需用少からず。又、之を粉碎して米搗粉ともなす。右の外、仁多郡、飯石郡より花崗石、邇摩郡より福光石を産出し共に其の質强硬なるも産出多からず。

製産狀況　石材採堀を專業とする者なきに非ざるも、多くは農家の副業的作業に

屬す、加工は松江市、八束、能義各郡に於て石工者之を爲す。就中、松江市には加工工場あり、石彫品として見るべきもの少からず、最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し。

年次	製造戸數	職工數	價額
大正五年	一、八〇二戸	二、〇四二人	二三、二九一円
同六年	二、七四六	一、九四七	一三六、八二九
同七年	一、六七二	一、九三二	一六八、九六六
同八年	一、七六九	一、九七三	二〇一、〇〇五
同九年	一、九五〇	二、二八五	四〇二、五〇三

◆販路 縣內需用の外鳥取、大阪、朝鮮等に移出し、殊に、來待石工品は價格低廉にして庭園裝飾用及建築用材として需要頓に加はり、近時各地に販出し益販路擴張せんとしつゝあり。

◆米

◆生產狀況 本縣產米は百萬石以上にして縣下物產の首位を占む。從來其の種類雜駁品質亦不良なりしが、原種の育成配付を行ふと共に、肥培の改善に勗め、移出米の檢查を施行する等に依り品種稍良好に趨けるを見る。現今作付種類の主なるものは龜治にして早大關、北部、雄町、穀良都、小腹、八反流等之に亞ぐ。最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し。

年次	作付反別	收穫高	價額
大正五年	五六、八四三・四町反	一、〇五五、六五三石	一三、三八七、六六六円
同六年	五六、九〇七・六	一、〇二七、七八六	二〇、七六五、七四七
同七年	五六、八七三・三	九五九、三四八	二八、一三四、六三一
同八年	五六、八六六・八	一、〇六四、五五二	四六、七〇一、四一四
同九年	五六、八一二・五	一、一六三、九九三	四七、九二四、九一三

◆產地 主要產地は簸川郡を最として總產額の約四分の一を占め、八束、能義二郡之に次ぐ

販路及移出高　縣外移出高は年額二十万石を下らず。販路は大阪、兵庫、鳥取、北海道、山口、廣島等にして就中大阪を最とす。而して移出米の八割は精白米として兵阪市場に仕向けられ、玄米は主として北海道地方及兵庫に移出せらる。

生産狀況　◈麥　麥は本縣の農産物中米に亞ぎ最も重要なるものなり。近來綠肥栽培の增加と養蠶業の好況に伴ふ桑園の擴張に依り、栽培反別は漸減の傾向あるも、耕種肥培の進歩と優良原種の配付に依り產額は多少增加の趨勢を見る。

產地　主なる產地は那賀八束二郡にして、簸川、美濃各郡之に亞ぐ。最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し

年次	作付反別	收穫高	價額
大正五年	一九、四六〇・九町反	二〇三、五五五石	一、一〇六、四五五円
同六年	一〇、八四八・九	一七一、〇四八	一、六五三、四〇〇
同七年	一七、〇一三・〇	一六〇、一三六	二、三二三、九九〇

年次	作付反別	收穫高	價額
同八年	一六、八九六町反	一八五、〇〇七石	三、七四〇、二七〇円
同九年	一六、八三五	一七三、七六七	三、三五八、一八二

販路　前揭の如く其產額多からず。專ら副食糧として縣內に消費せられ、未だ縣外に移出するに至らず。

生産狀況　◈豆　類　豆類は、大豆、小豆、豌豆、蠶豆等にして、就中、大豆及小豆最も多し。農事試驗場設置以來良種の普及を企て、且、栽培法の改善を計りしが近時滿洲及朝鮮より輸入するもの多く、其の壓迫を受け隨て栽培反別並產額を減少せり。最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し

年次	大豆 作付反別	大豆 收穫高	大豆 價額	小豆 作付反別	小豆 收穫高	小豆 價額	蠶豆 作付反別	蠶豆 收穫高	蠶豆 價額
大正五年	三一、三七八町反	二一、一四〇石	一七二、五四〇円	三一、三七八町反	一〇、三九三石	七一、五六一円			
同六年	二九、二八六	二二、〇三二	二一〇、五二三	二九、二八六	九、二四七	九〇、六三二			
同七年	二七、二五二	二二、七六三	三〇五、七五二	二七、二五二	八、〇八四	一二〇、八〇三			

同	八年	三一、八五三	九一七、四九五	一二、九九八	四六八、九五二
同	九年	三六、〇三六	六一四、二八七	一四、〇一二	三〇八、三三
					一一、二四四
					九、五八七
					二八、二七
					一四三、九二

●産地● 主要産地は隱岐國及簸川、邑智、那賀、八束、美濃の諸郡とす。

●販路● 販路は鳥取、山口、福井、大阪地方とす。

◈繭

●來歷及生産狀況● 本縣蠶業は古來より行はれしも其の業微々として振はず。明治十一二年頃より桑苗配付或は養蠶飼育試驗等を行ひ之か發達を奬勵する所ありしも明治十八年頃は其産繭僅に八百九十餘石に過さりしか、爾後巡回敎師設置、傳習所の開設等により漸次進步發達を來し、三十三年には産繭二萬三千餘石に達し優に縣下重要物産たるの地位を占むるに至れり。其の後明治三十八年縣立原蠶種●製造所を設立し、縣下蠶種の改良統一を計り其の效果著しく、且つ爾來桑園の改良育蠶技術の指導等種々の施設をなし、又、蠶絲業同業組合の設置を見るに至り、斯業は益々穩健の發達をなせり。最近五ヶ年間の産額等を示せば左の如し

	春繭	夏繭	秋繭	總價額
大正五年	五三、六六七石	三、〇六七石	三五、八八五石	四、四五七、七五五円
同六年	四二、九八九	三、五三九	四五、一七〇	六、五四五、三三〇
同七年	四四、九七六	四、六〇一	四六、三三〇	八、〇八一、二四〇
同八年	四五、九〇四貫	五、三七九貫	五五、四六九貫	二三、七三〇、三二八
同九年	四三六、七六〇	四二、四五三	四五一、九一八	六、五七二、六〇六

●産地● ●縣下各郡に産すと雖も、其の主産地は簸川、八束、大原、邑智郡等とす。

●販路及移出高● 全産額の約四割は製絲原料繭として縣內に於て使用し、其の他は甲信地方並に鳥取、廣島、山口等隣縣に移出せらる。

●來歷及生産狀況● ◈人參 出雲人參の起原は今より凡百二十年前寬政年間にあり。當時藩廳より吏員を日光、會津に派し栽培及製造方法等の傳習を受け歸りて、之を八束郡大根島に移植し藩營として製造し、長崎港に於て貿易を爲せり。廢藩の後は民

業に移し經營せしか、藩制の檢束弛廢し、栽培增加して需用供給の平衡を失ひ、或は粗製濫造をなすものあり、一時頗る沈衰せしも、明治二十三年同業組合を組織し製品の檢査を勵行し、爾來漸く面目を革め市場の信用を恢復せり。最近五ヶ年間の產額左の如し

年次	收獲高	價額
大正五年	一萬、六九〇斤	二九、一五〇円
同六年	一三、四四五	五一、六三八
同七年	二七、〇九〇	六〇、三三三
同八年	一六、三六四	九〇、九七二
同九年	一二、八三六	三六、九五五

●販路● 製品は全部神戶商人の手を經て支那に輸出す

●●●生產狀況● 麻 古來雲石山間部に多少の產出ありしも微々たるものなりしか、明治十四年栃木縣より技術者を招き、之か栽培製造の改良を試み稍々好果を得て產額增加したり。其の後邑智郡に於て農家の副業として奬勵に力むる所あり。一時矢上苧の名を成すに至りしも、近年蠶絲業の勃興に伴れ其の栽培地漸次縮少せられ品質亦善良ならす。從て販路も擴張せられずして稍衰退の狀況にあり。最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し。

年次	收穫		移出		殘	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大正五年	一六九、六三〇貫	四四、九五一円	二一、一三七貫	一〇二、三七七円		
同六年	一八五、五七〇	六〇、八九三	二四、五六九	一五五、九一八		
同七年	一八二、三〇〇	七九、八八〇	三三、五五六	一八四、二一〇		
同八年	一八四、四五一	一二四、〇〇八	二七、〇九〇	二五五、四三一		
同九年	一四三、二〇一	八六、四九三	二四、〇四八	一四〇、三〇〇		

●產地● 主產地は邑智、仁多、美濃、飯石の諸郡とす。

●販路● 縣外移出先は大阪、廣島、山口等なり。

◆茶

生産狀況　製茶の産額は未た多からすと雖も、茶樹の栽培は古來より行はれ、明治二十年頃より茶業組合及民間有志は協力して屢々各所に傳習所を設け、製法の改良を促し又茶實を配付して栽培增殖を圖りたる爲め、以來年を逐ふて產額增加の趨勢を呈したるも未た著しき發達を見す。最近五ヶ年の產額は左の如し。

年次	製造戸數	煎茶製造高	價額
大正五年	四二、三五六戸	二四、六三七貫	九一、二八一円
同六年	四二、三二〇	二四、〇四三	九七、九二二
同七年	四二、一六五	二四、〇六九	一二六、四八七
同八年	四二、六三六	二四、六五九	一七〇、七四二
同九年	四一、四七七	二四、一八三	二三一、六七一

產地販路　大原郡を最とし、松江市、簸川、八束、鹿足、美濃の各郡之に次ぐ。主として縣內に於て消費せられ稀に鳥取、神戸地方に移出せらる。

◆甘藷

來歷及生產狀況　享保年間、邇摩郡大森町の代官井戸正朋薩摩より甘藷の種子を輸入し大に其の栽培に努めしが、爾來年に月に繁殖し今や縣下到る所之を耕作せざるの地なく、下級農民の副食として多く需用せらる。其の種類は天竺、四十日、三年赤人參、元氣、川越、粟島等にして、最近五ヶ年間に於ける產額等を示せば左の如し

年次	作付反別	收穫高	價額
大正五年	四、九七六、六町反	一五、一一七、四〇一貫	五九七、八七二円
同六年	四、八三三、二	一三、七三二、一六二	七一四、〇八三
同七年	四、六六五、四	一一、六六七、一三九	一、四〇一、四五四
同八年	四、七七〇、〇	一四、二五四、四九四	二、三二四、七八四
同九年	四、六五七、一	一五、一五七、三九三	一、六一二、三九一

產地　主產地は那賀、隱岐、八束、美濃、邇摩の各郡とす。

●販路● 生産の殆んど全部縣内に於て消費し縣外に移出するもの甚だ稀なり。

◆鰯

●生産● 隱岐を主とし、沿海各郡殆んど之を產せざるなきも、最近其の原料たる柔魚の漁獲豐かならざる爲、之が產額亦減少の傾あり。而して、隱岐水產組合に於ては夙に規定を設け其の製造及荷造檢查を實行して品位を定め、檢查證を貼付して市場に搬出するを以て輸出先の信用を高め定評を得るに至れり。最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し

年次	一番鰯		二番鰯	
	數量	價額	數量	價額
	貫	円	貫	円
大正五年	一四〇、〇〇三	五五、五八二	九三八、一〇八	二四〇、三〇八
同六年	九九、一五六	五八、三六三	一、一二八、七四三	三八七、四九八
同七年	六四、六四八	三六、六六七	八八一、九一五	三五八、四三二
同八年	一三一、六三七	一六八、八九二	六九五、〇九九	四五九、三八九
同九年	一五一、五一八	一七八、九〇七	六四七、〇七三	二九六、六八九

●產地● 隱岐を主とし邇摩、那賀、八束の諸郡之に亞ぐ。

●販路● 殆と縣外特に神戸、大阪、山口、岡山、廣島等に移出せられ、神戸、大阪を經るものは主として支那向ものなり。

◆白魚

●生産● 主として宍道湖に產し、其の品質の佳良なる本邦特殊のものとして賞美せらる。而して松江市より製出する白魚罐詰は他の模倣し得べからざるなりといふ。最近五ヶ年間の產額等左の如し

年次	製造高	價額
	貫	円
大正五年	一〇、四六五	一一、三四〇
同六年	八、五五〇	九、〇九七
同七年	六、五一九	一一、二三五
同八年	二一、五五五	四六、九九五
同九年	一七、〇五九	四六、六一五

●産地● 宍道湖を主とし中海之に亞ぐ。
●販路● 鮮魚は地方の需要を充すに過ぎざるも、罐詰は京阪地方に移出せらる。

◆鯖

●生産● 本縣漁獲物中主要なるものゝ一にして、沿海各郡之を產せざるは無く、大部分は地方の需要に供せらるゝも、鹽製として縣外に搬出せらるゝもの亦少からず。最近數ヶ年間漁獲高左の如し

年次	漁獲高	價額
大正六年	一〇一、二〇八貫	一〇五、八六二円
同七年	三三、五〇〇	一三、七二五
同八年	五〇、九九〇	二六、六四四
同九年	五二五、九三三	三四一、三八九

●産地● 簸川郡を主とし那賀、隱岐、八束の各郡之に亞ぐ。
●販路● 大阪、神戸、廣島、山口、福岡、鳥取等とす。

●生産● 鰯は沿海各郡之を產せざるは無く、其の春期最豐漁季に當りては食料に供するの外肥料に製せらるゝもの亦多し。近年、煮干鰮は其の製造方法に改良を加へて好結果を收め、簸川郡水產組合の如き最も之に努むる所あり一般製品の品質益々精良となるに至る。最近五ヶ年間の產額等を示せば左の如し

年次	漁獲高	價額
大正五年	一四七、五六四貫	八八、六七三円
同六年	一二六、三七五	九三、三〇四
同七年	一二五、一八七	一六四、八四七
同八年	九一、六〇一	一五二、七五四
同九年	九八、三七六	一一三、七六九

●產地● 簸川郡を主とし那賀、八束の二郡之に亞ぐ。
●販路● 縣內需要を主とし縣外搬出先は中國各府縣なり。

◆鯛

●生産● 本縣漁獲物中最も主要なるものにして、沿海全郡之を漁獲せざるは無く特に四五六月の候を最盛期とす。最近五ヶ年間に於ける産額等左の如し

年次	漁獲高	價額
大正五年	四〇一、一二四貫	三〇一、七二〇円
同六年	四四〇、六八七	三七七、七六六
同七年	三三四、一〇九	三五三、三四三
同八年	三九九、九五三	八二六、三九七
同九年	五一六、〇二九	一、〇九八、七〇八

●産地●販路● 郡賀郡を主とし八束簸川二郡之に亞ぐ。地方に需要せらるもの最も多きを占むるも、輓近鐵道の開通連絡に伴ひ鮮魚の儘にて京阪地方に搬出せらるゝもの年と共に增加し、又燒鯛として京阪及關門地方に移出せらるゝものあり。

◆鰯

●生産● 此魚は最近發動機船の著しき發達に依り盛に漁獲せられ、其の漁獲高に於ては本縣重要漁獲物の一を占むるに至れり。最近五ヶ年間の産額等を示せば左の如し

年次	漁獲高	價額
大正五年	一八七、四七八貫	六四、三三五円
同六年	二六五、七四四	一四一、九六二
同七年	一七二、七六三	一二三、八五三
同八年	二四七、八四七	二三六、八二三
同九年	二〇五、九三〇	一八二、五九五

●産地●販路● 八束、簸川を主とし那賀、安濃之に亞く。此魚は其の品質及貯藏の關係上未た中央都會人士に歡迎せられざるが故に多くは地方の需要に止る、縣外に移出するものは鹽製となして之を販出す。

◆海苔

生産 本縣産の紫菜は元來全部岩海苔にして其の品質粗雜なるも大正三年以來人工に依るコンクリート應用養殖法を奬勵し、爾來其の品質製法を改良し其の最良なるものに至りては淺草海苔に比し甚しき遜色を見ざるに至れり。就中簸川郡北濱村十六島、八束郡片江村雲津、邇摩郡温泉津町殿島に産する物最も名あり。最近五ヶ年間の産額等を示せば左の如し

年次	數量	價額
	高	
大正五年	四、三四一貫	二六、二七四圓
同六年	八、四二七	四二、〇三五
同七年	三、九三九	三八、七五一
同八年	二、二三九	四八、三四四
同九年	五、八八三	六六、一四六

販路 産額未夥しからす。目下尚大部分は地方にて消費せらるゝも、其の聲價は

次第に都會人士間に高まれり。

◆蒲鉾

生産 本縣の蒲鉾は尚改良の餘地あるを認むると雖も、近時各郡に於て講習會等を開催せし爲品質の向上を見るに至り。就中邇摩郡の和江蒲鉾佳味の評あり

産地 邇摩郡を主とし簸川郡松江市之に亞く。

販路 大部分地方の需要に應するものにして、幾部分は鳥取縣及京阪地方に搬出せらる。

◆用材及薪炭材

生産狀況 本縣の林野面積は約四十萬町歩にして總面積の七割五分餘に當り、現に生立せる林木は針葉樹にして松を主とし杉、扁柏之に亞く。濶葉樹に在りては栗、なら、けやき、くぬぎ、しで、しい、かし、等を主とす。本縣は交通不便の爲古來より松櫲等の大材豊富なりしも、鐵道開通に伴ひ急に伐採搬出せられ著しく大材を減少するに至れり。製材事業に於ても近時各所に勃興し最近の調査に依

れば七十幾ケ所を數ふるに至る。而して一ケ年の資材消費高二十二万五千七百二十四石にして、資材は主として松とす。縣内主なる集散地は安來、松江、木次、今市、大田、江津、濱田、益田等にして、縣外の移出先は朝鮮、九州、山口、廣島、大阪、神戸、名古屋方面を主とするが如し。

◆木炭

生産狀況　木炭は本縣林業副産物中主なるものにして其の産額貳百萬圓以上に達す。之を大別すれば白炭及黒炭の二種にして、黒炭其の大部分を占む。本縣は古來より砂鐵採取業盛なりし爲め其の熔鑛燃料として製造せられたるもの多く爲に炭質劣惡なりしが、近時製鐵事業の衰退せしと縣に製炭敎師を置き之が改良に努めたる結果、品質漸次優良なるものを製出するに至れり。主産地は邑智郡にして能義、仁多、飯石、那賀、鹿足之に亞ぐ。販路は主として九州、大阪、神戸、京都等なり。最近數ケ年間の産額左の如し。

年次	産額	價額
大正四年	九、六〇九、一三〇貫	四三七、四四七圓
大正七年	一四、〇三三、九九四	二、八五五、一〇〇

◆椎茸

生産狀況　明治四十三年より縣に之か栽培敎師を置き、指導奬勵の結果、漸次其の生産を增加するに至れり。産地は主として隱岐島、鹿足郡、美濃郡、那賀郡等にして最近仁多郡に於ても産出するに至れり。販路は廣島、大阪地方を主とす。

六　商　業

(一)　概　要

本縣は山陰の僻陬に位し、地勢上商業上の地利充分ならざるの憾あり。加之、從來運輸交通機關の不備は万般の事業を阻碍し、物産與らず、金融沈滯し、人文常に世の風潮に遲れ、商取引は其活潑を欠ぎ、又、其の範圍極めて狹少にして、多くは傳統的商業を營めるに過ぎず、自ら進んで販路を縣外に需むるが如き商賈多からざりしが、今や山陰縱貫鐵道は周布に達し、近くは益田及津和野を經て山口線との聯絡行はれんとし、本縣商工業革新の黎明期に當り、就中、商取引に及ぼす直接影響は多大なるべきを想見し當業者一般に此機會に於て奮起するの氣風見ゆ、而して漸次鐵道の開通に伴ひ生産及購買力の增進を促し延て本縣商業の革新を見るに至るべきは自明の理なり。而して大正九年の商業戶數は一万七千七百二

戶にして農業戶數に亞ぐ。

(二)　會　社

會社は、其の數二百十六あり。縣下各地に散在せり。而して是等多數の會社中、銀行業を除くの外は、概して其の資本少額にして事業の規模大ならず、大正九年末に於ける會社の組織別を示せば左の如し。

種別	社數	公稱資本金	拂込資本金	積立金
株式會社	二三	二、〇二三 千円	一、三〇九六 千円	三六 千円
合資會社	一四	四七	四〇	二
合名會社	一九	二七	二九	二
計	二六	二、〇九七	一、三七五	七三

而して資本金拾萬圓以上の會社を表示すれば左の如し。

名稱	所在地名	設立年月	營業目的	資本金 總額	資本金 拂込濟額
出雲電氣株式會社	松江市母衣町	明治四四、一一	電燈、電力の供給電氣器具賣買貸付	千円 三、五〇〇	千円 二、一二五
山陰道産業株式會社	同　新材木町	同　四〇、四	朝鮮農業經營土地肥料賣買又は倉庫業金錢貸付	五〇〇	四九九
東亞商事株式會社	同　南田町	大正七、九	土地建物賣買、貸借	一〇〇	七五
山陰製蠟株式會社	同　松江分	同　七、一二	生蠟晒蠟蠟燭製造販賣	三〇〇	一六四
若松鐵山株式會社	同　母衣町	同　八、二	鑛物採掘並販賣	一、〇〇〇	六〇〇
島根縣水產株式會社	同　殿町	同　八、四	水產資金融通、漁獲物販賣	八〇〇	三〇〇
山陰石膏株式會社	同　母衣町	同　八、一二	石膏採掘販賣	三〇〇	七五
山陰商事株式會社	同　朝日町	同　九、六	肥料賣買	五〇〇	一二五
松江製氷株式會社	同　同	同　九、四	氷製造販賣	六〇〇	一五〇
合名會社山陰罐詰所	同　白潟本町	同　九、二	罐詰製造	一〇〇	九五
島根縣家庭興業株式會社	同　學町	同　六、五	副業製品	一〇〇	三三
簸上鐵道株式會社	八束郡宍道村	同　三、八	鐵道運輸	八〇〇	七〇〇
安來運輸株式會社	能義郡安來町	同　七、一二	海陸運送業	一〇〇	五〇
日本特產鐵株式會社	同	同　七、八	銑鐵の賣買	五〇〇	一二五

名稱	所在地名	設立年月	營業目的	資本金 總額	資本金 拂込濟額
株式會社安來製鋼所	同	同　五、二	鐵鋼の製造及販賣	一、五〇〇	一、〇〇〇
株式會社丸十運送店	同	同　六、三	運送業倉庫業	一〇〇	七〇
株式會社出雲舘製絲場	仁多郡三成村	同　六、六	生糸製造販賣	一五〇	一五〇
松江製紙株式會社	大原郡木次町	同　六、五	紙類紙糸製造販賣	一五〇	一五〇
三葉自動車株式會社	同	同　八、二	自動車に依る運輸業	一二五	一二五
三葉商事株式會社	同	同　九、四	製紙原料販賣	一二五	六二
一畑輕便鐵道株式會社	簸川郡平田町	明治四五、四	鐵道運輸	五〇〇	四二五
山陰製炭株式會社	同	大正七、一一	木炭製造販賣	五〇〇	一二五
出雲窯業株式會社	同　鹽冶村	同　九、二	赤瓦及製陶業	一〇〇	二五
溫泉津電氣株式會社	邇摩郡溫泉津町	同　四、一一	電力供給	一五〇	九〇
邑智電氣株式會社	邑智郡川本村	同　八、八	電燈電力供給電氣器具販賣	一〇〇	八五
濱田電氣株式會社	那賀郡濱田町	明治四四、五	電燈電力の供給	一、一〇〇	七〇〇
濱田製氷株式會社	同	大正七、九	製氷	一〇〇	五〇
淺利窯業株式會社	同　淺利村	同　九、六	石見燒製造販賣	一五〇	三七
石見窯業株式會社	同　都濃村	同　九、五	同	一〇〇	二五
石見商事株式會社	同　都野津町	同　九、五	米穀肥料販賣	一〇〇	二五

石見鐵工株式會社	同	濱田町	同	九、九	諸機械製造
一文字足袋織物株式會社	同	都野津町	同	七、三	足袋織物製造販賣
石見商事株式會社	同	濱田町	同	九、五	運輸業、倉庫業等
合名會社新治鐵業所	美濃郡都茂村	同	八、一一		鐵石採掘販賣
堀鐵業株式會社	鹿足郡畑迫村	同	七、四		鐵業
石見水力電氣株式會社	同	津和野町	同	三、五	電力供給電氣機械の販賣
石見製紙株式會社	同		同	六、一〇	製紙
隱岐汽船株式會社	隱岐國西郷町		明治三八、一〇		荷客運送
隱岐電燈株式會社	同		同	四四、八	電力供給

備考　千圓以下の數字は切捨つ

(三)銀行

松江市は、山陰道に於ける金融の中心地にして、日本銀行松江支店及び日本勸業銀行松江支店を始め、各種銀行本支店の設置多し、而して大正九年末調査に依る島根縣内に本店を有する銀行は二十二行あるも、近來合併又は增資盛に行はれ、

概して健全なる發達を遂げ地方金融の圓滑に資すること大なり。大正十年末の狀況左の如し。

種別	社數	資本金	拂込資本金	積立金
		千圓	千圓	千圓
株式會社	三	一、六四八	八〇七	一四九
合資會社	一	二	二	一

而して、銀行別狀況を表示すれば左の如し。

名稱	公稱資本金	拂込資本金	積立金	各種預金	貸付金	當座貸越
	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
株式會社古志銀行	二〇〇	九〇	一一	一五九	一二三	七
同山陰貯蓄銀行	二〇	三〇	四	三三〇	一三	四
同雲州今市銀行	五〇	一四	四	一二〇	一七	一
同八束銀行	一〇〇	九四	三	六六九	八三	三
同出雲商業銀行	二〇〇	八	一	三五	一五	一
同雲州西濱銀行	五〇	三七	一	三五	九	一

| | | |

二月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
三月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
四月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
五月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
六月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
七月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
八月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
九月	○・九五	○・七三	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
十月	○・九五	○・七〇	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
十一月	○・九五	○・七六	二六	一六	九	一二	一	一	一	一	一
十二月	○・九八	○・八〇	二七	一六	九	一二	一	一	一	一	一

(五) 縣外移出入貨物

近時、商工業の發展に伴うて、縣外移出入貨物の增加せしを見るが大正九年中の移出貨物總價額は、五千參百七拾萬九百四拾八圓にして、移入貨物總價額は參千參百貳拾壹萬參千八百六拾貳圓なり。今之が主要なる貨物を採錄せば左の如し。

◈移出貨物

種別	數量	價額	仕出地
米	一〇〇、一一九石	三、四七八、六二四円	大阪、鳥取、廣島、山口、兵庫
玄米	一九〇、七八〇石	七、四六三、三一〇	大阪、兵庫、鳥取、廣島
大麥	一、九三二石	七一、八六八	鳥取、兵庫、大阪、廣島
雜穀	三、二九二石	八四、二六四	鳥取、兵庫、大阪、山口、新潟
苧	四三、六二二貫	一〇三、四九一	廣島、山口、大阪
椿皮	二九四、〇八七貫	五八二、四〇九	大阪、岐阜、兵庫、山口、廣島
莖	一八、八〇〇貫	一五三、三四九	大阪、廣島、兵庫
三極	二九八、八〇六貫	五三〇、五〇四	岐阜、靜岡、鳥取、廣島、高知、山口
楮	五七、一九六貫	八、六八八、〇一六	長野、鳥取、京都、兵庫、廣島、山口
繭	一六五、三三八石	四、一五三、六三四	福井、鳥取、神奈川、京都、長野
生絲	一四、七〇一貫 一七、四五〇斤	一、〇四八、三三一	鳥取、岡山、京都、大阪、廣島、三重、山口、兵庫、愛知
二、二六四頭			
牛			

類			
馬松材	四五七頁	七、八〇四、二九九才	廣島、鳥取、岡山、福井、岐阜、兵庫、山口
杉材		一五、〇〇〇束	鳥取、京都、大阪、山口、兵庫、廣島
其の他木材		三、八二一、七五三才	京都、大阪、鳥取、兵庫、愛知、九州、廣島、山口、朝鮮
松板		六、九四二、四三八才 八六、八四七石	京都、大阪、愛知、鳥取、山口、朝鮮、九州、四國、兵庫、廣島
杉板		八六一、五二〇間 二、六二〇坪 一、一〇〇才	鳥取、福岡、山口、大阪、廣島、九州、朝鮮
其の他板類		一三三、四三七間	鳥取、朝鮮、山口、大阪、廣島、兵庫、九州
樹皮		一七一、五五九間	廣島、大阪、兵庫、山口、鳥取、九州、朝鮮
木炭	八、七一、六三八貫	三六一、一〇〇間 一七六、〇〇〇枚 一〇三、九四〇俵	大阪、京都、廣島、山口、九州
薪	一二一、九五〇束 二〇一、八〇〇俵 一、六二七、五二七貫	三、九三三、三五八貫	鳥取、兵庫、大阪、東京、京都、愛知、山口、福岡、九州
果實	一六九、〇五九貫	二七六、〇八二	鳥取、大阪、山口
銅鉱	二、五三〇俵 二七、四五〇貫	七六、〇八二	鳥取、大阪、山口
鉄鉱	五九六、一一二貫	八四四、四〇〇	大阪、兵庫、東京、廣島、山口、京都
石材	四六七、一三二箇	五一九、九〇五	鳥取、新潟、山口、北海道、朝鮮
陶磁器	三一九、三九八個 一、四三〇桃 二三、四六四丸	一、九二四、一五八	大阪、鳥取、愛知、北海道、四國、山口、廣島
美濃紙	一〇〇總 九七、三一〇束	一、二八三、一八九	東京、大阪、鳥取
半紙	？	二六八、六八一 二〇八、三五六	福井、大阪、新潟、鳥取、東京、岡山、兵庫、九州、廣島
疊表	四六二、九〇〇枚 一八五、九五〇枚	一、八一五、二九六	山口、廣島、岡山
莫蓙類	一二六、〇九〇貫	一二四、五〇五	山口、福岡、鳥取
燭	五、五三二、九七七枚	一八五、〇五七	鳥取、大阪、山口
瓦	二六五、三九五足	四八二、六九二	鳥取、山口、大阪、廣島、佐賀
足袋	一一、三三七石	一四二、一四九	鳥取、京都、廣島、山口
清酒		八七七、一四五	鳥取、山口、廣島、京都

温鈍	二、〇五二、三〇〇斤	七二、七五二、	鳥取、兵庫、大阪、東京、京都
罐詰	三三二、九六〇函 五三、一二四斤 二、二三五箱	二、八一、〇九九	大阪、兵庫、廣島、山口、九州
和洋小間物	?	一〇〇、〇〇〇	鳥取
洋傘	二、〇〇〇打	五八、〇〇〇	鳥取
鶏卵	二、四三一、七一五個 七〇、一一六貫	二五八、一四二	京都、大阪、岡山、兵庫、鳥取、廣島、山口
鰯	六四、一八八貫	一八八、一五七	大阪、兵庫、山口、京都、鳥取
乾魚	三五五、三〇六貫	五三一、五五二	京都、大阪、兵庫、廣島、鳥取、山口、岡山
鹽魚	一九一、三三七貫	二九一、四八九	大阪、廣島、鳥取、兵庫、京都
鮮魚	一、四一四、六二九貫	一、六二五、九六八	大阪、京都、鳥取、廣島、兵庫、山口
其の他水産物	七三、三三一貫	八三、四五一	京都、大阪、兵庫、鳥取、長崎、和歌山
石膏	四、〇四六、八九六貫 二二〇、八五四俵	四六八、三九九	山口、大阪、福岡、兵庫
含金銀銅	五九一、〇四一斤	五四六、〇二八	秋田
雑貨	?	一、五三四、〇一四	大阪、兵庫、山口、岡山、鳥取
呉服太物類	八一、〇五〇反	四八六、四五〇	鳥取、山口、廣島

枕木	九六、八〇〇挺	一、三二七、〇三三	朝鮮、兵庫、鳥取、山口、廣島、福井
杞柳製品	三九六、五〇〇個	五五、二〇三	大阪、兵庫
油類	六六、五五〇樽 一、一六一石 三五〇貫	一八三、九〇〇	大阪、兵庫、鳥取、山口、福岡
石粉	一三六、五八八俵	五四、五五五	鳥取、山口、廣島、九州
竹	三七、八六二束	八三、七四九	兵庫、鳥取、廣島、長野、大阪、山口、北海道、朝鮮
貝釦	三九八、〇〇〇将	六三、〇〇〇	大阪、兵庫、鳥取
肥料	四〇五、〇一〇貫	二三七、五九七	鳥取、大阪、京都、兵庫、山口
豆粕	一五六、九五二枚 一八、三五〇貫	六六九、五六八	京都、鳥取、山口
山葵	二一、四二四貫	六七、九三五	大阪、兵庫、廣島、京都、山口
コツヒー紙	四五、〇〇〇貫	二一五、三〇〇	大阪、東京
綿ネール	五、五〇〇本	五七、二〇〇	鳥取
砂糖	二七九、七五〇斤	一四〇、〇六五	鳥取、兵庫
下駄	一七、六五〇足	一四〇、一四九	大阪、山口、廣島
材		六一、二三〇	九州、京都、大阪、廣島
鐵	七二四、五五一貫		

◆移入貨物

種別	數量	價格	仕向地
支米	三一、七四石	一、〇〇二、四九円	鳥取、廣島、山口
白米	一三、九六九	六〇二、二六三	鳥取、九州、山口、兵庫、廣島
大麥	二一、一七八	二七二、二六〇	鳥取、岡山、山口、兵庫
小麥	一〇、二一一	二四六、一九〇	鳥取、廣島、山口、岡山、九州、兵庫
大豆	二四、二九六	四七五、四七八	朝鮮、北海道、鳥取、廣島、山口、兵庫
小豆	五、三九九	一七九、一八六	北海道、鳥取、廣島、兵庫、山口、朝鮮

品計	數量	價格	仕向地
藥製品	？	一三四、六五六	鳥取、京都、兵庫、大阪、山口
樽材	一三、二六一	六二、二八一	兵庫、山口、大連
經木眞田	二四四、〇〇〇圓	七〇、八一六	兵庫、廣島、大阪、山口
杭木	六八、〇〇〇本	六八、〇〇〇	福岡、山口、朝鮮
雜品	？	一七六、四三三	鳥取、兵庫、京都、大阪、九州、廣島、山口
計	？	五三、七九〇、九四八	

種別	數量	價格	仕向地
雜穀	二一、五三〇	六二、一八四	北海道、大阪、兵庫、岡山、四國、山口、朝鮮
綿袋	五八、三三一	一五七、〇八九	朝鮮、兵庫、廣島、大阪、岡山、四國、山口
卷煙草	二七、九九〇、三〇〇本	四三九、二一九	鳥取、廣島、岡山、福岡、山口
刻煙草	七一、八五二貫	八四二、九九九	鳥取、廣島、岡山、福岡、山口
茶	六九、二五〇斤	一〇一、三七五	鳥取、京都、靜岡、大阪、三重、廣島、奈良
繭	一、八〇〇貫	七〇、〇四〇	鳥取、山口、廣島
牛	一、三九一石	三三五、五〇八	岡山、鳥取、廣島、山口、朝鮮、大分
板類	二、五八九個	二四六、八〇〇	鳥取、兵庫、大阪、京都、山口、廣島、北海道
材木	二七、一四〇圓	八三、八四〇	鳥取
石炭	二、八二一、〇〇〇才	一七二、九四五	鳥取、山口、大阪、九州、福岡、廣島
石炭	三、〇〇〇石	一三八、五四五	鳥取、大阪、秋田、神奈川
木炭	二、三二九、六〇〇貫	三二二、六八七	大阪、鳥取、廣島、兵庫
銑鐵鋼	五五六、三四四貫	六五六、一四八	鳥取、廣島、九州、山口、大阪、兵庫
石油	五、八二六、八〇三斤	七八〇、四七四	東京、兵庫、廣島、山口、鳥取、京都、大阪
洋反物	三九、五八七、三八七貫		
雜	一九、〇二八石		
計	二一、二四四俵		
	？		

呉服	二三六、四一六反	京都、東京、大阪、鳥取、兵庫、廣島、山口	
絨毯	？	大阪、京都、兵庫、廣島	
陶磁器	？	石川、大阪、京都、廣島、山口、鳥取、愛知	
漆器	三四、二五四個	大阪、鳥取、京都、廣島、石川、山口、福岡、和歌山	
鑄物	一一四、六三三個	大阪、鳥取、岡山、廣島	
摺付木	一一三、六二二個 三、二〇〇箱	大阪、廣島、兵庫、山口	
洋紙	一四八、八〇八束	鳥取、廣島、大阪、山口	
西洋紙	？	鳥取、廣島、大阪、山口	
足袋	三九五、三五六足	岡山、鳥取、廣島、大阪、山口	
履物類	二八六、九六八足	大阪、山口、廣島、鳥取	
砂糖	九三五、八二一斤	大阪、兵庫、廣島、山口、鳥取	
清酒	八、三九二石	兵庫、鳥取、大阪、廣島	
醬油	三、六三六石	鳥取、廣島、山口	
酢	三、一三六石	鳥取、岡山、山口、廣島、大阪	
西洋酒	二八〇、三三三本 一〇、八二〇打	大阪、廣島、山口、兵庫、鳥取	

素麺	二三、五八九箱	兵庫、大阪、廣島、山口	
小麥粉	一〇、九二三石 三六、一八二袋	大阪、兵庫、山口、廣島、鳥取	
石鹸	？	大阪、廣島	
和洋小間物	？	東京、大阪、廣島、京都、山口、兵庫	
薬品	？	東京、大阪、廣島、名古屋、鳥取、富山	
絲類	？	大阪、廣島、兵庫、鳥取	
果實	一五五、〇一〇貫	岡山、山口、兵庫、大阪、鳥取、和歌山	
時計、寒暖計	三四、七八五個	東京、愛知、廣島、大阪、京都、兵庫	
硝子類	？	大阪、山口、廣島、京都、鳥取	
帽子類	六一、三五一個	大阪、京都、廣島、東京、鳥取	
洋傘	三五、四三八本	大阪、京都、廣島、山口、東京	
文具類	？	東京、大阪、京都、廣島	
古着	？	大阪、京都、山口、廣島、東京、鳥取	
古道具	？	大阪、廣島、山口、鳥取	
銅鉛線	三〇、〇〇〇貫	大阪	
乾魚	二四一、九四五貫	朝鮮、北海道、山口、大阪、鳥取	

品類	數量	價額	移出地	移入地
魚類	一二九、六六四貫	八七、一〇二	朝鮮、北海道、廣島、山口、鳥取	
生魚	二〇五、〇四七貫	四九九、五三〇	山口、鳥取、兵庫、大阪、京都、廣島	
鹽魚	六、四七一貫	七七、一一〇	大阪、廣島、山口、鳥取	
食鹽	六、四七二、三九九斤	一、九四〇、九一三	山口、鳥取、廣島	
雜貨	一八、〇一〇石	二、六七七、四五二	大阪、京都、兵庫、廣島、東京、山口	
米	？	一九一、三四三	大阪、兵庫、廣島、山口、鳥取	
外米	六、一六八俵	二一四、六九七	山口、大阪	
糠	三七三俵	四五七、九八七	鳥取、兵庫、德島	
麥	七、二四五石	一、八〇五、九八九	兵庫、大阪、山口、北海道、鳥取	
白麥	一四、〇七六石	八五〇、〇〇〇	兵庫、山口、朝鮮、鳥取、九州	
肥料	二、六三二、二四四貫	五九、六〇四	大阪、廣島、鳥取、兵庫	
大豆	？	五二、八二〇	大阪、京都、廣島、鳥取	
絞油	一、五七一石	二六二、七〇〇	大阪、和歌山、兵庫	
木綿	二三、二六六反	二九〇、九六二	大阪、山口、兵庫	
ネル	二五、〇〇〇本	七五、七六九	京都、鳥取、大阪	
セメント	二〇、三四五樽			
木具	二三、一四九個			

品類	數量	價額	移出地	移入地
諸車	五〇〇輛	五〇、〇〇〇	大阪、東京	
鐵	二五、〇〇〇斤	六四、七三九	山口、鳥取、大阪、兵庫	
物	一七、五五一袋	五一、五三〇	東京、京都、大阪	
絹	九〇三反	九五、六一〇	大阪、廣島	
石	二七二、六二〇斤	一三四、九四六	兵庫	
押	六、四二六袋	一二五、六二五	鳥取	
麥	九八、八〇〇	七八、〇二〇	大阪	
針	二八、九二〇貫	五〇、七一六	大阪、兵庫、山口、鳥取	
釣	一〇五、〇九一個	三二〇、〇〇〇	鳥取	
樹	二六〇、〇〇〇			
燐				
火				
木				
枕				
計	？	三三、二三三、八六二		

(六) 對鮮貿易

濱田港は本縣唯一の開港場なるが、大正八年の移出總價額は貳拾六萬七千七百九拾九圓にして、前年に比し拾壹萬貳百九拾五圓を增加し、移入價額は貳拾七萬參

千百參拾七圓にして前年に比し拾七萬六千六百八拾六圓を增加せり。而して山陰道には境、濱田兩貿易港あるも、境港は輸出高多く、濱田港は輸入高多き現象を呈しつゝあるが、今、大正八年に於ける濱田港に於ける對鮮貿易關係を示せば左の如し。

◆濱田港移出重要品表

品名	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	八年	七年	六年	五年		
木炭	斤一六六、八九九	四、〇九三円	二一、七七一	六二六円	三四〇	二、六九九円
木材及板	?	?	二一、七六三	三三六、〇〇〇	六七、一〇九	四、六八四
竹材	?	?	?	?	四、六八四	二、一一一
磚瓦	一	二〇七、三〇七	二一、四一〇	二〇二、三〇七	二、一一一	四、五四七
陶器	?	一九、〇九三	六、六四三	三九、一四八	四、五四七	九一四
繩索叺及莚	?	一、一九一	一、一〇七	?	九一四	一
鐵道枕木	石一、〇四五	一三、一〇四	三、四六七	?	一	四六五
其他諸品	?	一、八八二	八一二	?	四六五	?
計	?	二六七、七九九	一五七、五〇四	一二五、四九七	八一、五三九	

◆濱田港移入重要品表

品名	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	八年	七年	六年	五年		
大豆	擔一五、七八五	一四七、一七五円	八、二三九	六七、四八二円	二一〇、二〇七円	九、九四九円
小豆	擔六四〇	五四、八〇五	五四	四五一	四五九	五七
米	擔一、六四四	二三、一〇〇	二	二四七	四〇一	三一六
他の穀物種子	?	一四、一八二	?	六、四五四	一	一
乾魚	一	?	一	五、三八〇	一一、三九	四、五五六
油糟及肥料	?	六九、六六九	八九八	四、三〇三	四二五	一、四二四
米糠	擔二、〇二〇	四四、四四四	二、一一二	一四、七〇〇	一、〇三四	一、七二四
其他諸品	?	六六四	?	三	五九五	九五
計	?	二七三、一二七	?	九六、四五一	三七、六一七	一六、三九七

七　商工業施設機關

◆商品陳列所

島根縣商品陳列所は本館、即賣館及工業試驗場より成る。由來、本所は明治十三年の創立に係り、明治四十三年現在の位置即ち舊縣廳舍を修覆して移轉し、翌四十四年、本館に大修繕を加へ館の內外に修飾を施す等面目一新せしか、大正九年更に本館の西、別館を公開して即賣館に充つ。構內の坪數は千二百二坪にして、本館階下百十九坪、階上百二十七坪あり。即賣館階下の坪數は四十五坪あり。今主なる施設事項を擧ぐれば左の如し。

一、縣內生產品製造品竝本縣產業上參考となるべき內外國產出の商品、特許品、實用新案品、寫眞等を陳列して公衆の縱覽に供す

二、當業者の委托に應じて其の製產品を陳列卽賣す

三、陳列品の說明、取引上の紹介、其他本縣生產品に關する調査紹介の依頼に應ず

四、本縣產業の狀況に關する調査、紹介又は質疑に對する應答を爲す

五、各種展覽會又は品評會を開催す

六、當業者に對し圖案の指導を爲し又其依頼に應じ意匠の考案を爲す

右の外、從來縣廳內に設けある工業試驗室を大正八年度より本所の管理に移したるが、該試驗室には染織業、釀造業、窯業、紙業の各專任技師又は技手を設置して各種の試驗研究をなす傍ら實地指導並に講習講話をなしつゝあり。而して大正九年度に於て卽賣館の西に釀造及製紙業の工業試驗所を增築し之等試驗事業の擴張を爲せり。

◆商業會議所

松江市を地區とする一商業會議所あり。明治二十七年設立せられ商工業の調査、紹介、奬勵等の任に當り同市の商業助成上に裨益する所多し。大正十年度の事業大綱左の如し。

(一)商業研究所開設　(二)店員勤功表彰　(三)珠算講習會　(四)北鮮及釜連貿易の振興　(五)商業資料展覽會開設　(六)店員職工に對する定期精神講話會　(七)廣告展覽會　(八)實業調査　(九)商工業組合及聯

◆濱田測候所

本所は明治二十六年一月の創立に係り二等測候所にして那賀郡濱田町に置く。之と關聯して縣下樞要地二十五個所に簡易觀測所を設く、又、松江、濱田、溫泉津、杵築、西鄉、浦鄉は縣立地方暴風警報信號標を建設し、外に私設のもの十五あり て一般氣象の觀測を爲すと共に常に航海業者、漁業者等の警戒に力め、又、重要農作物、養蠶時季等に際しては特に天氣豫報の周知に努め當業者の注意を促し其の他應用氣象の利用に努めつゝあり。

◆産業組合

明治三十三年産業組合法の發布以來專ら組合の設立勸奬に努めたる結果、今や全縣下に之か普及を見るに至り、現在に於ける組合總數は三百七其の外産業組合聯合會一あり。而して是等組合の成績は概ね良好にして事業漸次發達の域に向ひ効果の見るべきものあり。其の最も優良なるものに對し産業組合中央會及其の支會

より表彰せられたるもの二十二組合あり。而して本縣に於ては專任吏員を常置し之か指導監督に努め益々健全なる發達を圖りつゝあり。今大正十年末に於ける産業組合を目的別に示せば左の如し

	信購	購販	販生	信購生	購販生	信購販生	計
八束	一四	一四	一	九	三	一	四五
能義	一三	一	一	一	一	一	一五
仁多	四	一	一	二	一三	一	二〇
大原	六	一	二	四	二	一	一六
飯石	九	一	一	三	一	一	一六
簸川	一九	一	一	六	五	八	四二
安濃	六	一	一	四	一	一	一〇
邇摩	一四	一	一	二	一	一	一八
邑智	一八	一	一	三	一三	一	二九
那賀	四〇	二	一	四	一八	一	五〇
美濃	六	一	一	四	一	一	一八

	鹿足	隱岐	松江	聯合會	計
	九	五	一	一	一七
	一	一	一	一	一二
	一	一	一	一	六
	一	一	一	一	四
	一	一	一	一	四
	一	一	一	一	一三
	一	一	一	一	五
	一	一	一	一	五六
	一	一	一	一	一九
	一	一	一	一	三

◆産業組合中央會島根支會

本會は明治三十九年の設立に係り、中央會の趣旨に基き縣下に於ける産業組合の中央機關として斯業の普及發達及聯絡を圖るを以て目的とし着々其の實績を擧げつゝあり。其の事業の主なるものを擧くれば左の如し。

(一)會報の發行　(二)講習會の開設　(三)講話會の開催　(四)巡回指導　(五)實地視察、實疑應答　(六)諸用紙、諸帳簿、關係法規印刷配付　(七)成績優良なる組合及功勞者の表彰

◆重要物産同業組合

縣下に於て重要物産同業組合法に依りて設立したる同業組合は二十四あり、各組合の名稱左の如し

名稱	事務所位置	營業種類	設置認可年月	組合員數
出雲廣瀨絣同業組合	能義郡廣瀨町	絣製造、同染色、同販賣	明治三一・一三	
出雲表吳産同業組合	松江市　殿町	表吳産製造、同販賣	同　三一・一〇	一、五八三
石見蔺莚同業組合	美濃郡安田村	蔺蓆製造、同販賣、同仲買	同　三二・一	二、〇七六
石見紙同業組合	那賀郡濱田町	紙製造、同原料製造、紙、同原料販賣	同　三七・一〇	
出雲石同業組合	八束郡來待村	來待石、來待石粉製造	同　四二・一	二九四
出雲黑瓦製造業同業組合	八束郡古江村	黑瓦製造	大正　六・一三	
能義郡製麵同業組合	能義郡安來町	千温純製造、同販賣	同　八・四	七三
那賀郡窯業同業組合	那賀郡濱田町	陶器製造業及瓦製造業	同　八・一	一一七
出雲國製紙同業組合	松江市　殿町	紙製造	明治三七・一〇	
島根縣仁多、大原、飯石三郡製紙原料同業組合	仁多郡 大原郡 飯石郡	楮、三椏生産、同販賣、雜製	大正　五・九	三七〇

島根縣簸川郡蠶業同業組合	簸川郡今市町	簸川郡	蠶、蠶種製造、賣買、繭賣買、桑樹栽培、桑苗賣買、桑葉賣買、他人の爲蠶種繭等の買入、又販賣をなすもの	明治三六・三	二一〇八四	
島根縣邑智郡蠶業同業組合	邑智郡川本村	邑智郡	蠶、蠶種製造、蠶種商、繭商、桑葉商、桑樹一畝歩以上の自作者又は小作者	同 三七・一	四一七三二	
島根縣邇摩郡蠶業同業組合	邇摩郡大森町	邇摩郡	蠶、桑樹栽培、蠶種製造	大正 七・四	一八七五	
島根縣安濃郡蠶業同業組合	安濃郡大田町	安濃郡	蠶、蠶種製造、桑樹栽培、殺蛹乾繭、繭種、繭、桑葉、桑苗の賣買、仲立若は保管	同 七・六	二一二八一	
島根縣那賀郡蠶絲業同業組合	那賀郡濱田町	那賀郡	蠶、蠶種製造、生絲製造、桑樹栽培、繭賣買仲立	同 七・一〇	三一九〇七	
島根縣仁多郡蠶絲業同業組合	仁多郡三成村	仁多郡	蠶、蠶種製造、生絲製造、玉絲又は眞綿製造、桑樹栽培、殺蛹乾繭、蠶種、繭、桑葉、桑苗、生絲、玉絲、眞綿、屑物の賣買仲立若は保管	同 八・三	三一〇三三	
島根縣大原郡蠶絲業同業組合	大原郡大東町	大原郡	蠶、蠶種製造、賣買、繭賣買、桑樹栽培、桑苗賣買、桑葉賣買、他人の爲蠶種繭等の買入、又販賣をなすもの	同 八・五	四一〇五五	

◆酒造組合

酒造組合十二あり、此の組合の聯合會を松江市に置く

島根縣飯石郡蠶絲業同業組合	飯石郡掛合村	飯石郡	蠶、蠶種製造、生絲製造、玉絲又は眞綿製造、桑樹栽培、殺蛹乾繭、蠶種、繭、桑葉、桑苗、生絲、玉絲、眞綿、屑物類賣買、仲立若は保管	同 八・九	三、六八〇	
島根縣隱岐國蠶絲業同業組合	周吉郡西郷町	隱岐國	蠶、蠶種製造、生絲製造、玉絲又は眞綿製造、桑樹栽培、殺蛹乾繭、蠶種、繭、桑葉、生絲、玉絲、眞綿、屑物の賣買、仲立若は保管	同 九・二	一六	
島根縣八束郡蠶絲業同業組合	松江市 殿町	八束郡	蠶、蠶種製造、生絲製造、桑樹栽培、殺蛹乾繭、蠶種、繭、桑葉、生絲、玉絲、眞綿、屑物類の賣買、仲立若は保管	同 九・四		
松江市八束郡牛乳搾取販賣同業組合	松江市 殿町	松江市八束郡	牛乳搾取販賣業	同 四・二	一六	
邑智郡木炭同業組合	邑智郡川本村	邑智郡	木炭製造、同販賣、同問屋、同販賣業代理商、賣買仲立業	同 六・一		
鹿足郡木炭同業組合	鹿足郡津和野町	鹿足郡	木炭製造、販賣業者	同 一〇・一一	四七五	

組合名	事務所所在地	地區	目的	設立認可年月
島根縣酒造組合聯合會	松江市	全縣下	酒造組合相互の氣脈を通じ營業上の弊害を矯正し斯業改良發達を圖る	大正一〇、一二
松江酒造組合	松江市和多見	松江市	酒造業の改良發達を圖り營業上の弊害を矯正す	明治三九、三
八束郡酒造組合	能義郡安來町	八束郡	同上	同三八、一二
仁多郡酒造組合	仁多郡橫田村	仁多郡	同上	同四〇、一〇
大原郡酒造組合	大原郡加茂村	大原郡	同上	同四一、一
飯石郡酒造組合	飯石郡掛合村	飯石郡	同上	同三三、八
簸川郡酒造組合	簸川郡今市町	簸川郡	同上	同三九、九
邇摩郡酒造組合	邇摩郡大森町	邇摩郡	同上	同三五、二
安濃那賀郡酒造組合	那賀郡濱田町	安濃那賀郡	同上	同三九、九
美濃郡酒造組合	美濃郡益田町	美濃郡	同上	同三三、八
邑智郡酒造組合	邑智郡阿須那村	邑智郡	同上	同三九、一
鹿足郡酒造組合	鹿足郡津和野町	鹿足郡	同上	同三三、一一
隱岐酒造組合	隱岐國布施村	隱岐島	同上	同三九、一二

◆準則組合

本縣規則に因る同業組合は二十九あり。製品の檢査、販路の擴張、弊害の矯正等を目的とするも、事業の見るべきもの少し。

（松江市）四、（八束郡）四、（能義郡）四、（仁多郡）二、（大原郡）三、（飯石郡）一、（簸川郡）一、（安濃郡）一（邇摩郡）三、（邑智郡）一、（那賀郡）一、（美濃郡）二、（鹿足郡）一、（隱岐島）一

◆商工會

地方商工業の改善發達並商工業者の和親共同を圖る爲、從來、市街及町村に於て商工會を設置するもの少からざりしが、概して、其の成績不振の狀態に在るを以て之が規律節制を保ち振作發動を期せしむる爲、大正四年、縣令を以て商工會規則を發布し、爾來、同則に依り認可を得たるもの大正十一年三月現在數二十九に達せり、外に聯合會一あり。商工會聯合會は縣下各地に散在せる商工會の聯合せるものにして、松江商業會議所に事務所を置き縣費補助を得て商工業諸般の調査指導を爲しつゝあり。今、商工會數を郡市別に示せば左の如し。

松江市(一)……島根縣商工會聯合會
八束郡(二)……美保關村　揖屋村
能義郡(三)……廣瀨町　安來郡　荒島村
大原郡(二)……木次町　大東町
飯石郡(三)……赤名村　幡島村　三刀屋村
簸川郡(六)……莊原村　大津村　平田町　杵築町　直江村　今市町
安濃郡(二)……大田町　波根西村
邇摩郡(二)……大森町　温泉津町
那賀郡(三)……江津町　濱田町　都野津村
美濃郡(二)……益田町　高津村
鹿足郡(二)……津和野町　日原村
隱岐島(一)……西鄉町

◆穀物檢查所

廢藩置縣後貢米の制を廢し金納制に革まりしより、米に關する諸般の檢束弛み、地主は小作納米の不足なからむことを願慮して其の品質を選擇せず、小作人亦徒

に收穫の多量を望み品質乾燥調製等には全く意を留めず、其の結果米穀市場に於ける聲價墜落し漸次排斥を受けむとするの狀態を呈し、之か救濟は一日も忽諸に付すべからざるを以て、明治三十八年八月、先づ米俵取締規則を發布して俵裝の改良を圖り、米粒の漏失を禦ぎ、明治四十年七月米穀輸出檢查規則を發布し、同年九月より縣外輸出米の檢查を行ひたり。其の効果ありて、本縣米の欠點たる乾燥は漸く良好となり、米質、調製、俵裝等漸次改善の域に進み、多年失墜せし市場の聲價は漸次輓回し、價格の昇騰を來せり。而して現在の檢查所及出張所二十九ヶ所にして縣下樞要の地に置く。

◆商　工　業

商工業教育普及の目的を以て松江市に縣立の商業、工業の兩校あり。商業學校は明治三十三年の設立、工業學校は明治四十四年の設立にして同校には木工科と金工科に分つ。兩校ともに甲種程度とす。

八　重要商業地案内

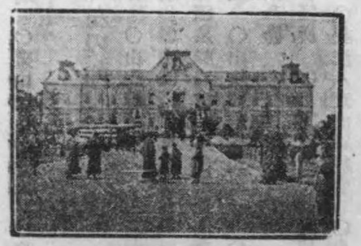
◆松江市

出雲の北、島根半島のほぼ中央地頸部に位し、宍道湖に臨み、人口四萬に餘り物貨集散の中心にして山陰第一の都會なり。市街は大橋川を以て南北二區に分たれその橋南を白潟と稱し、橋北(半島部)を末次といふ。この兩區を結ぶに大橋、新大橋の二橋を以てし、前者は所謂松江大橋にして、古代風の橋梁其の長さ七十有餘間に及び行人織るが如し。試みに、橋上欄に倚りて四顧せんか、東天、遙かに伯耆の大山、倒扇の美を雲表に恣にし、その前面、眉宇の間に迫る、嵩、博羅の二城址は、恰かも土佐繪の如く、これより北方、蜿蜒、西に向つて走れる一帶の峯巒、男性的氣分を示し、女性的氣魄

千鳥遊園

ただよう湖南の諸峯と相對し、西に開くる煙波縹渺たる宍道湖は一大鏡の如く、湖中嫁ヶ島の窈窕碧波に漂ひ、天倫寺の蒼影水に映ずるの邊は、殊に愛すべし。若し夫れ、紅雲映ゆる夕陽の眺望に至つては詩人をして本邦十二景の隨一、東洋のゼネバ湖等の讃歎を爲さしむ。又、中央高く龜田山の、蓊鬱たる老松を貫きて聳ゆるは、三百年來市の興廢を司りし千鳥の牙城にして今は、市の美觀を添ふ。名所舊跡其の他視察地は左の如し。

○城山公園　○島根縣廳　○商品陳列所　○松江大橋　○末次運動場
○普門院　○月照寺　○天倫寺　○天神遊園　○床几山遊園　○春日山　○愛宕山　○嫁ヶ島　○菅田庵　○園藝場　○樂山　○八重垣神社　○歩兵第三十四旅團司令部及第六十三聯隊　○末次遊園　○玉造温泉　○加賀の潜戸



島根縣廳

物産は

○繭　○八雲漆器　○瑪瑙水晶細工　○機械類　○銅鐵器　○鑄物

○打及物　○指物　○蠟燭　○石工品　○機
○鍛　○水產物

銀行、會社、工場、組合團體の內主要なるものを擧くれば左の如し

○日本銀行松江支店　○日本勸業銀行松江支店　○松江銀行　○八束銀行　○山陰貯蓄銀行　○島根貯蓄銀行　○和栗銀行松江支店　○第三銀行松江支店　○米子銀行松江支店　○山陰道產業株式會社　○島根縣水產株式會社　○合同汽船株式會社　○出雲電氣株式會社　○松江鐵泉株式會社　○東亞商業株式會社　○若松鐵山株式會社　○山陰石膏株式會社　○松江倉庫株式會社　○山陰製水株式會社　○池淵精米工場　○島根縣家庭興業株式會社　○山陰製蠟株式會社　○松陽製糸場　○松江柳籠研究所　○島谷鐵工場　○石橋鐵工場　○石橋鐵工所　○福島造船所　○松江商業會議所　○出雲表莫產同業組合　○雲州人參製造同業組合　○牛乳搾取同業組合　○松江八束酒造組合　○島根縣酒造組合聯合會　○島根縣商工會聯合會　○島根縣信用購買組合聯合會　○山陰商事株式會社

市內に於ける新聞社及其の支局を擧ぐれは左の如し

○山陰新聞社　○松陽新報社　○山陰日日新聞支局　○大阪朝日新聞山陰通信部　○大阪每日新聞山陰通信部　○大阪時事新聞松江支局

◆安　來　港（能義郡）

安來は古より世に聞えたる名邑にして俗謠安來節「安來千軒名の出た所社日櫻に十神山」（出雲節ともいふ）の起源地なり。安來港頭、巍然として聳ゆる青々たる鋭錘塔を碧水に映する十神山は安來港に一段の情趣を添ふ松江を距る東十二哩、中海南岸の良港なり。人口六千、戶數千五百、縣下屈指の商業地にして、殊に製鋼業、盛にして又精米工業地として夙に覇を關西に唱ふ。この地大阪商船の寄港するを始め帆船汽船の出入多く、又松江市及び米子町より每日數回、汽船の定期航海もあり鐵路の延長と共に海陸交通の便を占む主なる移出入品は

移出品　○米　○生糸　○
鐵鋼　○溫飩　○木材　○
清酒　○木炭
移入品　○米　○大豆　○
雜穀　○煙草　○諸油　○
鐵　○砂糖　○呉服類　○
小間物　○肥料

清水寺

銀行、會社、工場等は左の如し。

○安來銀行　○株式會社安來製鋼所　○足立製糸場　○安來運輸株式會社　○精米所　○米子銀行支店

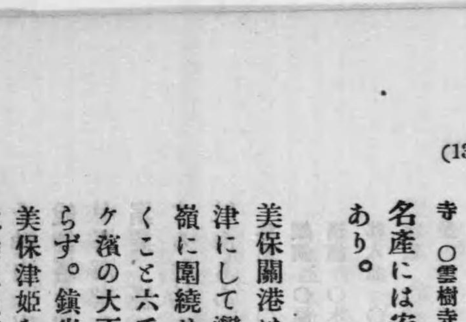
遊覽地は

○十神山　○安來港　○比賣塚　○安來公園　○社日櫻　○清水寺　○雲樹寺

名産には安來乾温飩、十神海雲、錦山燒、安來人形等あり。

◆美保關港（八束郡）

美保關港は島根半島の東端に位する日本海岸西部の良津にして灣に沿ふて狹長帶の如き街衢を爲し、三面山嶺に圍繞せらる。前は灣を隔てゝ、出雲富士、海を拔くこと六千尺、其の秀容を美保灣の碧波に映し、夜見ケ濱の大天橋はその長さ五里、翠松風光優美いふべからず。鎭坐ませる國幣中社美保神社は事代主命及其妃美保津姫を祀る、出雲大社に次ぐ有名なる神社にして水難及漁獲の靈驗著として船子海士等の崇敬最篤し。



美保神社

美保關港

港内、汽船、帆船の碇泊するもの常に蝟集し春月影朧に海風青巖にそよぐの邊り絃歌の聲常に絶ゆることなき山陰の別天地なり。この地の特産たる竹細工品は土產物として最も旅客の嗜好に適せり。其東端地藏の鼻には燈臺あり。俗謠に名高き關の五本松は街の西四五丁小丘の上に其優姿を示せり

◆廣瀨町（能義郡）

安來驛を距る南三里に在り。荒島驛より南二里、自働車の聯絡あり。市街は富田川（飯梨川の上流）の左河畔に在る城下町にして戸數九百、人口四千、能義郡役所の所在地なり。清流を距てゝ月山を望む。月山は尼子氏累代の古城址にして、一夜山上に遊び明晃たる月光に浴びては、そゞろに其のむかし覇を山陰山陽十一ヶ國に稱し威武中國を壓せし面影を偲ばしむ。此の地もと松江藩の支封にして松平氏の治所たりき。名産廣瀨絣、吐月糖、鋸を出し、又、木炭、紙の集散地たり。

銀行會社其の他團體は

○安來銀行支店　○出雲廣瀨絣同業組合

遊覽地は
○月山　○矢中松　○尼子經久墓　○富田八幡宮　○新宮黨　○堀尾吉晴墓　○太鼓の壇　○駒返山
○天馬ヶ鼻　○石室

◆横田村（仁多郡）

仁多郡の東部に在り。市街は斐伊川の上流横田川に跨り、人口二千八百餘、此地牛馬市を開くを以て其の名博く知らる。又算盤を產す精巧他に比無く龜嵩算盤と稱し世に賞用せらる。此地方物產の主なるものは米、酒類、算盤、牛等とす。銀行は松江銀行支店あり。

◆大東町（大原郡）

松江市を距る南二十哩、郡の中央に位し、人口三千五百餘、赤川に沿ひ、市街を爲す。郡役所、稅務署等あり。此地物產の主要なるものは牛、生絲、茶、紙、三椏楮等とす。就中デヴォン牛の產地として全國に名高し。銀行は松江銀行支店、八束銀行支店あり

◆木次町（大原郡）

大原郡の西南斐伊川右岸堤防の下に市街を形成し、簸上線の終點にして、又、當町と廣島縣三次との間に聯絡自働車の通ふあり。人口三千、宍道驛を距る十三哩なり。市街地は斐伊川々床より低く、從來屢々水害を蒙りし爲め人家競ふて地床を高くしたるより軒檐不揃俗に「一文上り」の稱あり。此地出雲奥部交通の要衝にして商業取引の盛なること郡內第一とす。官衙に裁判所、警察署あり。物產の主なるものは牛、生絲、紙、繭、三椏とす。

○松江銀行支店　○八束銀行支店　○松江製紙株式會社　○木次水產株式會社　○簸上製絲場

◆平田町（簸川郡）

宍道湖の西北、船川を溯る約一里に位し又、直江驛を去る二里にして、人口六千五百有餘、背面西南一帶は簸川平野なれば水陸交通の便あり。日々數回湖上汽船松江市との間を往復す。本縣生絲の主產地にして又名物平田溫飩、生姜糖を產す。

會社銀行工場等左の如し

○雲州平田製絲場　○日本製絲株式會社平田工場　○杞柳製作工場　○一畑輕便鐵道株式會社　○松江銀行支店　○簸川銀行支店

一畑薬師　平田より約二里、東北に一畑薬師あり。寛平年間の創立にして山上薬師堂に瑠璃光如來を安置し、境内廣く堂宇壯麗にして老松蒼樹の間より簸川平野及宍道湖を瞰下し又、東には遙かに出雲富士の靈姿と相對す。眺望絶佳、眼病に靈驗あり數百里を遠しとせずして參詣する善男善女常に堂宇に充滿す。平田町より一畑輕便鐵道に搭し二十分にして到る。

◆掛合村（飯石郡）　松江を去る陸路十二里、飯石郡の中央に位し、人口八百餘、郡役所、警察署、稅務署等あり。木次三次間聯絡自働車の通路たり。而して此地、山間に位するも廣島街道の衝に當るを以て人馬の往來頻繁にして物貨の集散亦尠からず。古來著名

の砂鐵は此附近より產す。物產の主なるものは左の如し。

○牛　○繭　○木材　○木炭　○三椏

銀行には松江銀行支店及今市銀行支店あり。

◆今市町（簸川郡）　連山波濤の如き中國山脈の山麓、蜿蜒長蛇の如き出雲の大河、斐伊川の下流、浩蕩たる山陰第一の曠野を形成する所、簸川平野といふ。地味豐饒、里人富裕なり。其の中央一名邑あり、即ち出雲今市是なり。大社線、一畑線、濱田線の分岐點にして四通八達の要衝を占め百貨輻輳、商業繁盛、西雲第一の都會にして戸數一千五百人口六千餘、簸川郡役所を始め其の他の諸官衙備はる。附近物產の主なるものは米、生糸、繭等とす。

銀行、會社には

○簸川銀行　○第三銀行支店　○雲州今市銀行　○今市製業銀行　○山陰木炭株式會社

附近、南二里立久恵の奇勝あり神龜峽ともいひ、山陰の耶馬溪とも稱せらる、又

北一里餘鰐淵寺は智春上人の建立に係り雲國第一の古刹にして幽邃閑寥結構の莊嚴古雅出雲大社と並び稱せらる。

◆杵築町　簸川郡の西北隅杵築港に沿ひ、大社線の終點にして海陸運輸の便よし、人口約五千あり。本邦第一の古社、出雲大社の鎭座し給ふ所、北に崇高雄偉なる宇迦山を負ひ、西に淸澄明潔なる稻佐濱を控え、東南は渺茫たる簸川平野に連る。仙雲は縹緲として片そぎの千木を拂ひ佳氣は絪縕として太敷き宮柱を繞る神代以來の神境なり。參拜の客は常に群衆して市況頗る賑ひ、風情自ら溫雅を覺ゆ。

杵築町を距る十町の西方に杵築港あり。港は北透迤たる宇迦山脈に依りて擁せられ南は白砂長翠三里、園の長濱を隔て遙かに佐比賣山の靑黛を望み、西一面煙波

茫々、天涯と相接するの大觀謂ふべからず、殊に夕景の美は天下に名高し。若し夫れ園の長濱より起る颯々たる松籟を聞かば國引の故事を語るが如く、又、蕩々と寄せ來る稻佐の波は國讓の段を唄ふが如く數千年の昔を偲ばしめ低徊去る能はざらしむ。

此の地方養蠶、生絲、漁業盛にして乾河豚は名物なり。

移出入品は

移出品　○米　○生絲　○繭　○魚類

移入品　○呉服類　○雜貨　○砂糖　○石油　○肥料

銀行に、杵築銀行、松江銀行支店、湖西銀行、雲州今市銀行支店、大社銀行あり

◆太田町（安濃郡）　松江を去る西十里、市街は三瓶川に沿ひ、遙かに雄偉なる三瓶山（佐比賣山）に對し安濃郡の中央に在りて最も景勝の位置を占む。此地山口街道の衝に當り、且近く久手港を控へ海陸交通の利を占む大正四年の春、鐵道開通以來頓に貨物の集散增

加せり。久手港を經て移出入する貨物の主要なるものは左の如し。

移出品　○米　○繭　○生絲　○木材
移入品　○穀類　○呉服類　○砂糖　○金物類　○雜貨

郡役所、警察署、郡立農學校あり。

金融機關に靜間商業銀行、松江銀行支店あり。

◆大森町（邇摩郡）

太田を距る西南三里弱、山口街道に在る石見名邑の一。古來、銀山を以つて著はる大森銀山は延慶年間の發見に係り、舊幕府の直轄に屬し代官を此地に置き保護頗る厚く盛に採掘したりしが、維新後個人の手に移り轉じて現今は大阪藤田組の經營する所たり。物産の主なるものは、含金銀鉛型銅、甘藷、木材、杞柳製品にして、銀行、工場には、和栗銀行支店、八束銀行支店、及ひ柳行李傳習所あり。

◆川本村（邑智郡）

大森町を距る南五里餘にあり。邑智郡樞要の地にして江川に沿ひ、人口三千有餘、

郡役所、警察署、稅務署等あり。此地山間に位し道路の通するものあるも峻坂にして車行難く貨物の運送は專ら江川の舟楫に依りて之を爲す。物產は鮎、材木、木炭、麻、椎茸等とす。

會社に松江銀行支店、邑智電氣株式會社、製絲工場あり。

◆溫泉津港（邇摩郡）

大森町を距る三里半、日本海に面し、溫泉地なるとに依り其の名著はる。灣內水深く三方山に擁せられ汽船帆船を泊するに適し、大阪商船の寄港地にして商業殷盛、人口二千五百あり。溫泉は市街の東端にあり。浴客常に來遊するもの夥し。

此の地附近は赤瓦及粗陶器の製造盛にして、今や全國に販路を有す。

移出入品は

移出品　○木炭　○木材　○赤瓦　○粗陶器　○玄米　○海產物
移入品　○雜貨　○反物　○小間物　○石油　○砂糖

金融機關に濱田商業銀行支店あり

◆江　津　港（那賀郡）

濱田を距る東七里、江川の川口に位し人口三千七百餘、山口街道に接するを以て海陸交通の衝に當る。殊に邑智郡内の物貨を始めとし廣島縣三次町及本縣飯石郡地方の物貨は中國第一の大河江川に依り搬出せらるを以て商業盛なるが開通以來一層地方運輸の便開けたり。

移出品　○木材　○粗陶器　○木炭　○瓦
移入品　○煙草　○食鹽　○吳服洋反物　○大豆　○石油

江川の絶景

◆濱　田　港（那賀郡）

古來、瓦及陶器の産地にして陶器は夙に江津燒の名あり。銀行會社に江津銀行江津商業株式會社等あり。本港の移出入貨物は

濱田港は本縣唯一の貿易港にして、松江を距る西三十八里、石見の中央に位し日本海に面す。灣頭瀨戸ヶ島の青松碧波に映じ白帆去來する所風光甚佳なり。市街は濱田川に跨りて人家稠密し、人口一万二千有餘、商賈櫛を並べて商業繁盛なり。海路關門、釜山、境、敦賀の諸港と連絡し、陸路山口街道に接し且廣島街道の起點なるを以て海陸共に運輸交通の便頗る宜し。曩に開港場に指定せられし以來朝鮮との貿易增進し大正八年中の輸出入總額は五拾四萬餘圓なり。其の主なるものは

輸出品　○木材　○木炭　○竹材　○陶器
輸入品　○大豆　○小豆　○穀類　○肥料

濱田港

此地、舊松平氏の治所なりき。今、郡役所を置く、其他裁判所、警察署、松江監獄署分監、稅務署、測候所、圖書館、女子師範學校、中學校、高等女學校等の官公署學校多し。又郊外、石見村には步兵第二十一聯隊の屯營するあり。

銀行、會社、工場にして其の主なるもの左の如し。

○濱田商業銀行　○庚申銀行　○島根貯蓄銀行支店　○和栗銀行支店　○濱田電氣株式會社　○纏詰製造工場　○製絲工場

遊覽地は

○龜山遊園　○濱田港　○外ノ浦港　○馬島　○栗島神社　○長濱港　○鏡山

◆益田町（美濃郡）

濱田の西十里山口街道に當り人口四千有餘、石見國西部の名邑にして吉田平野に連り益田川その市街を横斷す。百貨集散、商業殷盛、郡役所、警察署、區裁判所、稅務署等の官衙あり。郡内の物産は多く此地に集まるを以て商業盛なり。金融機關には、濱田商業銀行支店、和栗銀行支店、島根貯蓄銀行支店あり。

移出品　○木材　○木炭　○疊表　○半紙
移入品　○煙草　○食鹽　○石油　○大豆　○反物類

町内、萬福寺は時宗の古刹にて同寺の後庭は書聖、雪舟の築きしものにして有名なり。

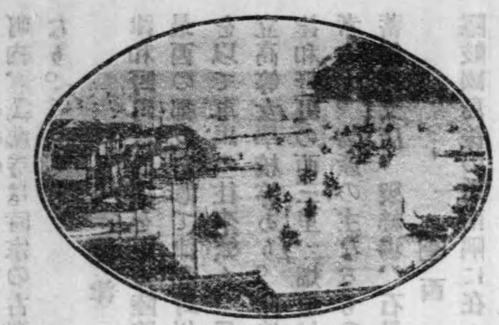
◆津和野町（鹿足郡）

津和野町は松江を距る陸路五十八里、山口線德佐驛より二里半にして達する本縣最西の都邑にして津和野川に跨り、もと龜井氏の治所にして山口街道の衝に當るを以て車馬の往來繁く、戸數一千餘、人口五千餘、郡役所、警察署、稅務署、縣立高等女學校等あり。此地製絲業盛にして又紙の集散地たり。

津和野町の西三里、畑迫村には笹ヶ谷銅山あり尚此の附近にて亞砒酸製造をなす者あり。物産の主なるものは生絲、楮、三椏、半紙なり。銀行會社工場は島根貯蓄銀行支店、製絲場、石見水力電氣株式會社、石見製材株式會社等とす。

◆西郷町（隱岐國）

隱岐國島後の東南隅に在り。境港より海路五十七浬、隱岐島唯一の商港なり。市街は西郷灣に瀕み、八尾川に跨り人家稠密す。人口五千。隱岐島樞要の地にして



西郷港

島廳を此に置く。蓋し本港は日本海中稀に見る天然の要港にして灣内水深く濤穩なるを以て船舶の出入自由なり。本港は海産物の集散地にして、就中鰯を最とす。主なる移出入品を示せば左の如し。

移出品 ○鰯 ○木材 ○牛
移入品 ○米 ○酒 ○雜貨 ○煙草

西郷會社、工場は左の如し

○隱岐汽船株式會社 ○第三銀行支店 ○繰綿工場

○隱岐汽船株式會社は、國庫及縣費より航海補助を受けて本土と内地間並に隱岐島前、島後各島間の貨客運輸の業を營み定期航路を開く。

西郷町郊外には縣立水產商船學校、縣立農事試驗場入田分場、國幣中社水若酢神社、國幣小社玉若酢神

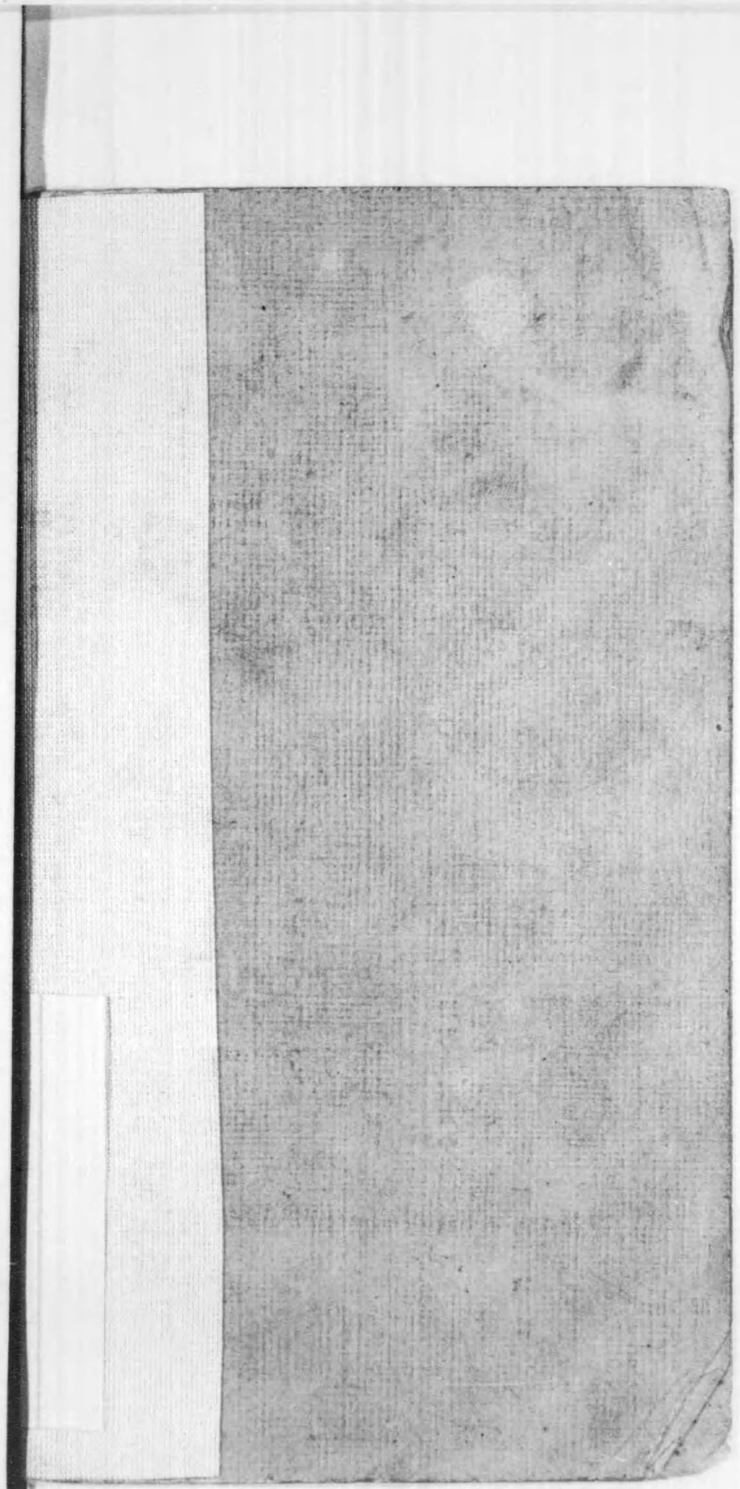
社、國分寺遺址、增鏡瀑布あり。

海を隔たる島前海士村には後鳥羽院の御火葬所、行在所址あり、又傳說の後醍醐天皇行在所址（黒木御所址）は海士村の對岸黒木村にあるも歷史家は該址は島後中條村内なりと主張す。

327
319p

大正十一年四月十日印刷發行

島根縣內務部

印刷所　松江市殿町三百八十三番地
松陽新報社
電話三六九

終